

# 2023年3月期 決算説明会

2023年5月11日

## 免責事項

本資料は、ソフトバンクグループ株式会社(以下「SBG」)及びその子会社(以下SBGと併せて「当社」)並びに関連会社(以下当社と併せて「当社グループ」)に関する関連情報を提供するものであり、すべての法域において、いかなる証券の購入又は応募の申込みを含む、いかなる投資勧誘を構成又は形成するものではありません。  
また、本資料は、Arm Limitedが発行する証券の購入または応募の申込み、またはその勧誘を構成するものではありません。あらゆる証券の購入または応募の申込み、またはその勧誘は、1933年米国証券法(改正法も含む)およびその他の適用証券取引関連法令に従い登録制に基づき行われます。

本資料には、当社グループの推定、予測、目標及び計画を含む当社グループの将来の事業、将来のポジション及び業績に関する記述など当社グループの将来の見通しに関する記述、見解又は意見が含まれています。将来の見通しに関する記述には、特段の限定を付すことなく、「目標とする」、「計画する」、「確信する」、「希望する」、「継続する」、「期待する」、「目的とする」、「意図する」、「だろう」、「かもしれない」、「であるべきである」、「したであろう」、「できた」、「予想する」、「推定する」、「企図する」若しくは類似する内容の用語若しくは言い回し又はその否定形などが含まれています。本資料に記載されている将来の見通しに関する記述は、当社グループが本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社グループの現在の前提及び見解に基づくものです。これら将来の見通しに関する記述は、当社グループのメンバー又はその経営陣による将来の業績を保証するものではなく、当社グループのビジネスモデルの成功、当社グループの資金調達力及びその資金調達条件の影響、SBGの重要な経営陣に関するリスク、当社グループの投資活動に関する又はこれに影響を与えるリスク、SBファンド(下記で別途定義)並びにその投資、投資家及び投資先に関するリスク、ソフトバンク株式会社及びその事業の成功に関するリスク、法令・規制・制度などに関するリスク、知的財産権に関するリスク、並びに訴訟を含むこれらに限られない既知及び未知のリスク、不確実性その他要因を含み、これらの要因により、実際の当社グループの実績、業績、成果又は財務状態は、将来の見通しに関する記述において明示又は黙示されている将来の実績、業績、成果又は財務状態と著しく異なる可能性があります。当社グループの実績、業績、成果又は財務状態に影響を与える可能性のあるこれら及びその他の要因については、SBGのホームページの「事業等のリスク」([https://group.softbank/ir/investors/management\\_policy/risk\\_factor](https://group.softbank/ir/investors/management_policy/risk_factor))をご参照下さい。当社グループ及びその経営陣は、これら将来の見通しに関する記述に明示されている予想が正しいものであることを保証するものではなく、実績、業績、成果又は財務状態は、予想と著しく異なる可能性があります。本資料を閲覧する者は、将来の見通しに関する記述に過度に依拠してはなりません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記述その他当社が行う将来の見通しに関する記述を更新する義務を負いません。過去の業績は、将来の実績を示すものではなく、本資料に記載される当社グループの実績は、当社グループの将来の実績の予測若しくは予想の指標となるものではなく、又はこれを推定するものでもありません。  
本資料に記載されている当社グループ以外の企業(SBファンドの投資先を含みますが、これに限られません。))に関わる情報は、公開情報等から引用したものであり、当社は、情報の正確性又は完全性について保証するものではありません。  
本資料には、Arm Limitedに関する記述が含まれています。これらの記述は、SBGの株主への情報提供のみを目的としたものであり、Arm Limitedが発行するあらゆる有価証券の販売又は購入の勧誘を目的としたものではありませんし、そのように解釈されるべきではありません。

## 商標について

本資料に記載されている企業、製品及びサービスの名称は、各企業の商標又は登録商標です。

## 重要なお知らせ—SBGの普通株式の取引、スポンサーなしADR(米国預託証券)に関する免責事項

SBGの普通株式の売買を希望する場合には、当該普通株式が上場され、主に取引が行われている東京証券取引所において売買を行うことを推奨します。SBGの開示は、スポンサーなしADR(以下「ADR」)の取引の促進を意図するものではなく、ADRの取引判断を行う際にこれに依拠すべきではありません。SBGは、SBGの普通株式に関するスポンサーなしADRプログラムの設立又はそれに基づき発行されるADRの発行若しくは取引について、過去及び現在において、参加、支援、推奨その他同意を行ったことはありません。SBGは、ADR保有者、銀行又は預託機関に対して、(i)SBGが1934年米国証券取引所法(以下「証券取引所法」)で定めるところの報告義務を負うこと、又は、(ii)SBGのホームページに、SBGが証券取引所法ルール12g3-2(b)に従って証券取引所法に基づくSBGの普通株式の登録の免除を維持するために必要な全ての情報が継続的に掲載されることを表明するものではなく、また、当該者又は機関は、そのように信じてはなりません。適用ある法が許容する最大限の範囲において、SBG及び当社グループは、SBGの普通株式を表象するスポンサーなしADRIに関連して、ADR保有者、銀行、預託機関その他企業又は個人に対するいかなる義務又は責任を否認します。  
上記の免責事項は、ソフトバンク株式会社やZホールディングス株式会社などの、スポンサーなしADRプログラムの対象であるか又は将来対象となる可能性のある当社グループの証券に同様に適用されます。

## 本資料に記載されるファンド情報に関するお知らせ

本資料は、情報提供を目的として提供されるものであり、法律上、税務上、投資上、会計上その他の助言又はSB Global Advisers Limited(以下「SBGA」)、SB Investment Advisers (UK) Limited(以下「SBIA」)及びそれらの関係会社を含むSBGの子会社(以下併せて「SBファンド運用会社」)により運用されるいずれかのファンド(文脈に応じて、パラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて「SBファンド」)のリミテッド・パートナーシップ持分又は同等の有限責任持分の販売の申込み又は申込みの勧誘を行うものではなく、また、いかなる方法でもそのように依拠してはなりません。疑義を避けるために付言すると、SBファンドは、他のファンド同様、SBIAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド1」)、SBGAとその関係会社によって運用されているSoftBank Vision Fund II-2 L.P. (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ビジョン・ファンド2」)及びSBGAとその関係会社によって運用されているSBLA Latin America Fund LLC (文脈に応じて、あらゆるパラレル・ファンド、フィーダー・ファンド、共同投資ビークル又はオルタナティブ投資ビークルと併せて以下「ラテンアメリカ・ファンド」)を含みます。  
SBファンド(ビジョン・ファンド1及びビジョン・ファンド2並びにラテンアメリカ・ファンドを含む)、SBファンド運用会社、SBファンド運用会社により運用される後続又は将来のファンド、SBG又はそれぞれの関係会社のいずれも、本資料に記載されている情報の正確性又は完全性について、明示又は黙示であるとかかわらずこれを表明又は保証するものではなく、また、本資料に記載されているパフォーマンスに関する情報はSBファンドその他本資料に言及される企業の過去若しくは将来のパフォーマンス又はSBファンド運用会社により運用される後続ファンド、将来組成されるファンドの将来のパフォーマンスについての確約又は表明として依拠してはなりません。  
SBファンドその他本資料に言及される企業のパフォーマンスに関する情報は、背景説明のみを目的として記載されるものであり、関連するSBファンド、本資料に言及されるその他のファンド又はSBファンド運用会社により将来運用されるファンドの将来のパフォーマンスを示すものとして考慮されるべきではありません。SBファンドの特定の投資対象に関する情報への言及は、それに含まれる範囲において、関連するSBファンド運用会社の投資プロセス及び運用方針を説明することのみを目的として述べられたものであり、特定の投資対象又は証券の推奨として解釈してはなりません。SBファンドのパフォーマンスは各個別の投資においてそれぞれ異なる可能性があり、個別に言及した取引のパフォーマンスは、必ずしも全ての適用される従前の投資のパフォーマンスを示唆するものではありません。本資料において記載及び説明される特定の投資は、関連するSBファンド運用会社が行う全ての投資を示すものではなく、本資料において記載及び検討される投資が利益を生んだ又は将来利益を生むと仮定すべきではありません。  
本資料に記載されるSBファンドのパフォーマンスは、ポートフォリオ投資の未実現の評価額に基づくものです。未実現の投資評価額は、関連するSBファンド運用会社がそれぞれ特定の投資に関する状況に基づき合理的とみなす前提及び要因(例えば、評価日現在における類似の会社の平均株価収益率その他勘案事項等を含みます。)に基づくものです。しかしながら、未実現の投資評価額が本資料に記載されている金額又は本資料に記載されているリターンを算定するために用いられる金額で実現されるという保証はありません。また、かかる実現に関する取引費用が未知であるため、当該取引費用は、かかる算定に含まれません。未実現額の見積りは、常に変化する多くの不確定要素の影響を受けます。関連するSBファンドの未実現の投資に対する実際の実現リターンは、いくつか要因がある中で特に、将来の関連実績、処分時の資産価格及び市況、関連する取引費用並びに売却の時期及び方法によって決まるものであり、これらの要因は全て、関連するSBファンド運用会社の評価の根拠となった前提及び状況と異なる可能性があります。過去のパフォーマンスは、必ずしも将来の実績を示すものではありません。SBファンド又はSBファンド運用会社により運用される将来のファンドのパフォーマンスは、本資料に示されるパフォーマンス情報よりも大幅に低くなる可能性があります。各SBファンド又は関連するSBファンド運用会社により運用されるいずれか将来のファンドが、本資料に示される実績と同等の実績を達成するという保証はありません。  
本資料に記載される第三者のロゴ及びブランド情報は、説明目的のためにのみ提供されるものです。かかるロゴの記載は、かかる企業又は事業との提携又はその承認を示唆するものではありません。SBファンド運用会社、SBファンドのポートフォリオ会社、SBファンド運用会社により運用される将来のファンドの将来のポートフォリオ会社、又はSBGが、本資料に記載されるロゴを有する企業又は事業のいずれかと今後業務を行うという保証はありません。  
SBGA及びSBIAは、ビジョン・ファンド1、ビジョン・ファンド2及びラテンアメリカファンドの運用に関して、相互にSBGからそれぞれ別個独立した業務プロセスを採っています。SBGA又はSBIAによって運用されるSBファンドは、それぞれSBGA単独又はSBIA単独で運用されています。

# 2022年度

ロシアによるウクライナ侵攻



米中摩擦の深刻化



金融システム不安(SVB・クレディスイスなど)



環境激変の中、  
どのように  
対応したか

「守り」の1年

# 2023年度

## 足元の変化を受けどのように運営するか？

### 市場環境

- ✓ 株式市場動向
- ✓ 利上げ政策
- ✓ 地政学リスク

### 技術の進化

- ✓ 生成系AIの急激な普及

## 引き続き「守り」？

# 2023年度

## 足元の変化を受けどのように運営するか？

### 市場環境

- ✓ 株式市場動向
- ✓ 利上げ政策
- ✓ 地政学リスク

### 技術の進化

- ✓ 生成系AIの急激な普及

## 「守り」「攻め」の両立？

# 連結業績

# 連結業績

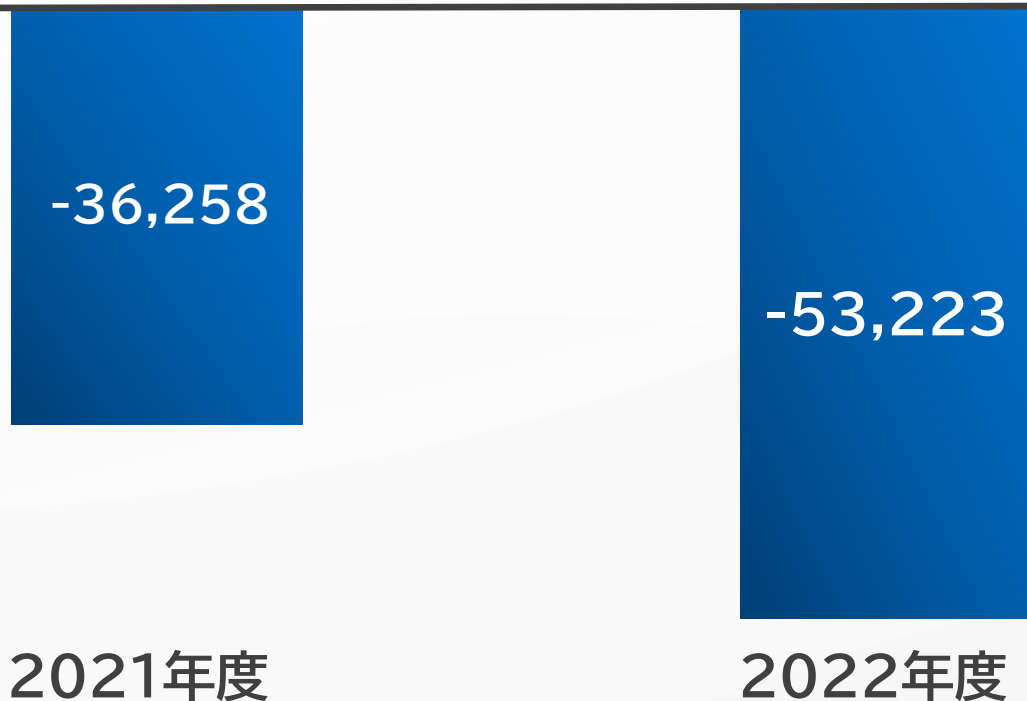
(億円)

	2021年度	2022年度	増減額
売上高	62,215	65,704	+3,489
投資損益	-34,347	-8,351	+25,997
税引前利益	-8,696	-4,691	+4,004
純利益	-17,080	-9,701	+7,379

# 投資損益

(億円)

■ SVF事業

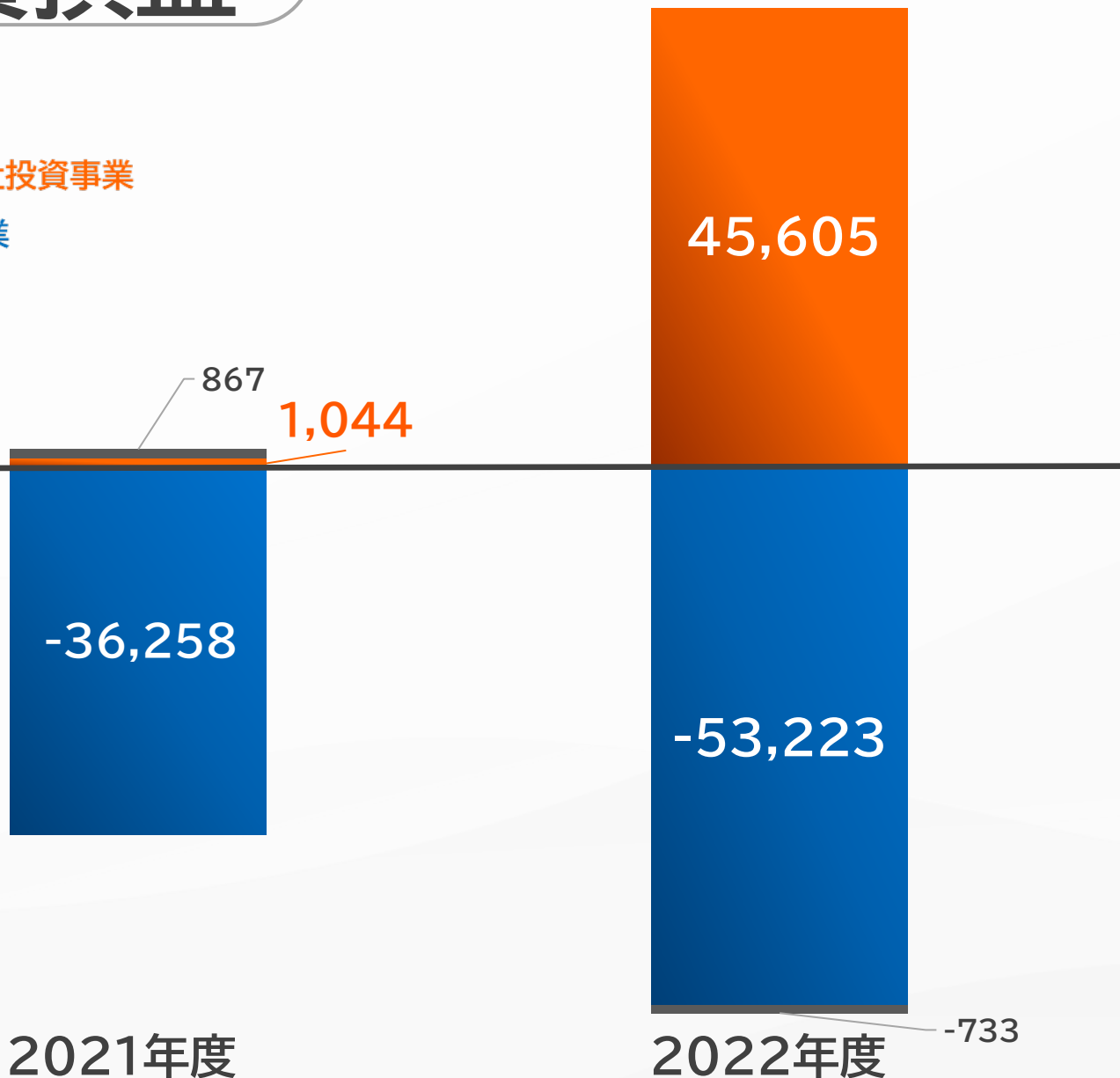


SVF投資  
損失 5.3兆円



# 投資損益

(億円)

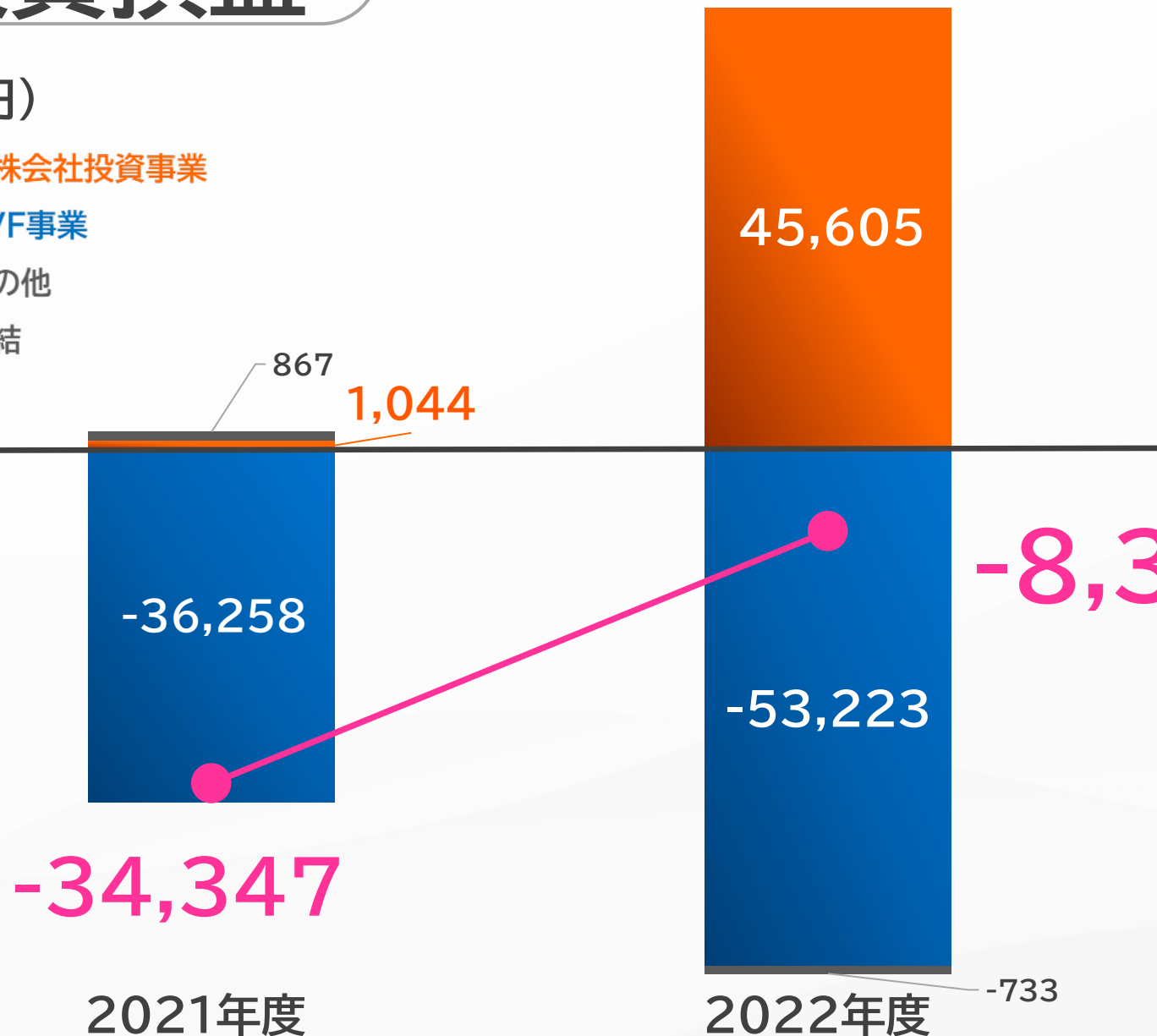


主にアリババ関連取引  
利益 4.6兆円

SVF投資  
損失 5.3兆円

# 投資損益

(億円)



連結ベースで  
大幅改善

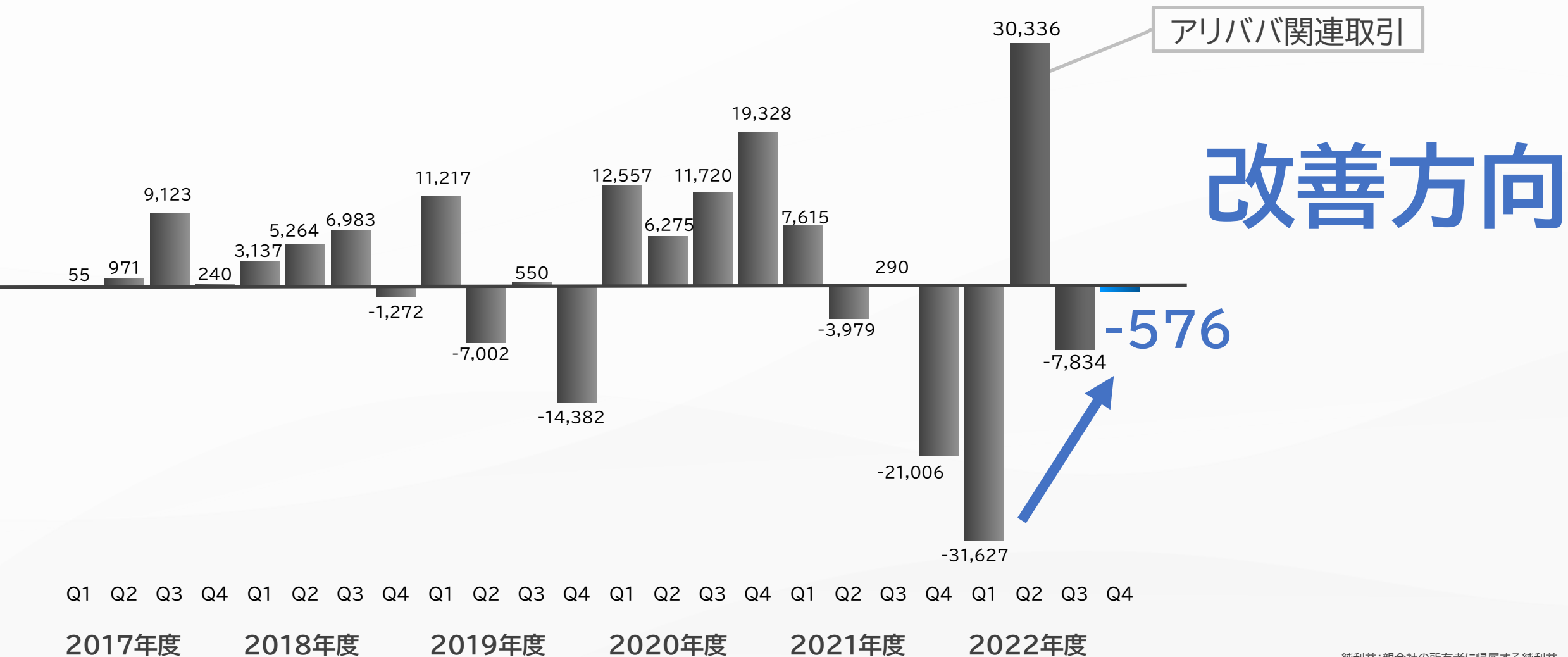
# 税引前利益 (セグメント別)

(億円)

	2021年度	2022年度	増減額
持株会社投資事業	9,652	33,498	+23,847
SVF事業	-25,530	-43,083	-17,553
ソフトバンク事業	8,497	5,928	-2,570
アーム事業	412	487	+75
その他・調整額	-1,726	-1,521	+205
連結	-8,696	-4,691	+4,004

# 純利益 (四半期)

(億円)



アリババ関連取引

改善方向

# 為替影響 (2022年度)

## 円安はNAVと資本にプラスの影響

NAVへの影響

+1.3兆円

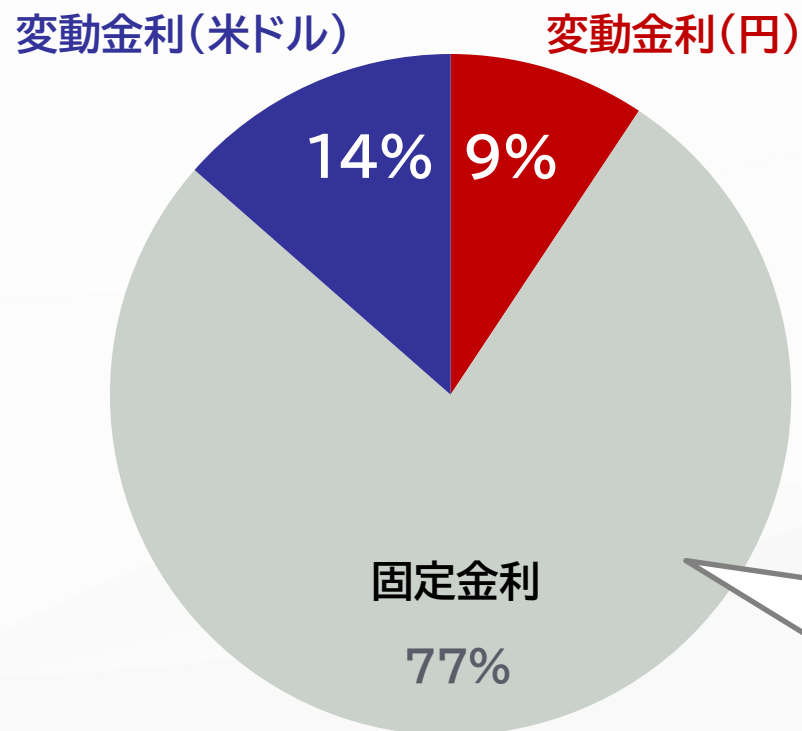
会計への影響

資本  
+1.3兆円  
連結純利益  
-0.8兆円

# デットの固定・変動比率(金利上昇による財務リスクなし)

## 金利変動に伴う利払い負担への影響は軽微

### SBG単体有利子負債における 固定・変動比率



- 変動金利のデットは全体の23%のみ
- ドルは受取利息の上昇で相殺
- 円金利1%上昇の影響は75億円に留まる

- 低金利環境で固定化
- 今後の積極的な調達予定なし
- 金利上昇をとらえてバイバックを実施(FY2022 償還差額 491億円)

SBG単体有利子負債: 2023年3月末時点のSBGおよび資金調達を行う子会社における有利子負債残高(含むマージンローン、除く株式先渡契約)

変動金利(円): 含むCP残高

円金利1%上昇の影響: 円変動分にかかる12か月の利払増額(推計)

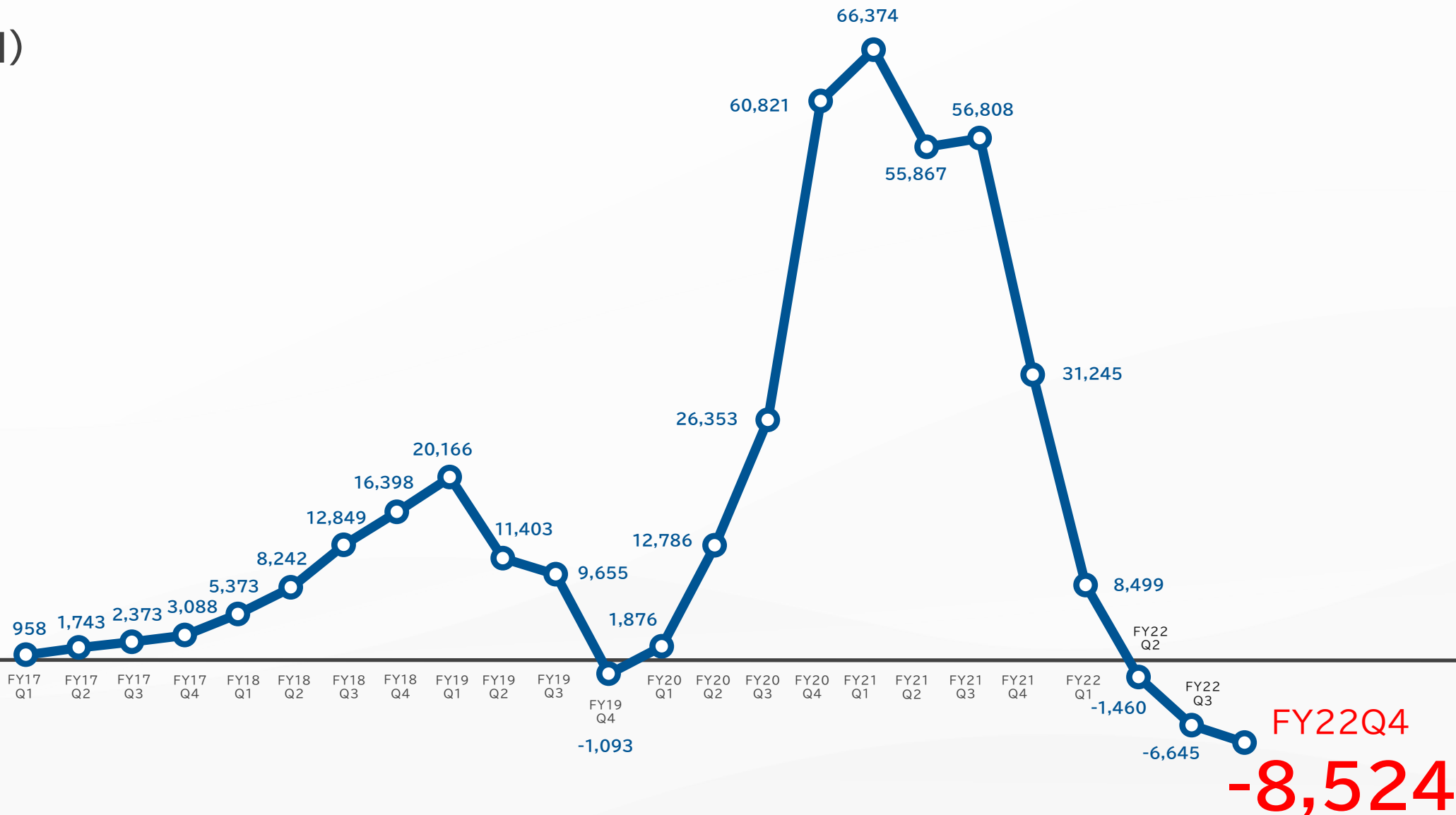
FY2022 償還差額: その他の損益に含まれる社債償還益(441億円)+ドル建てハイブリッド社債の発行額と買入額の差額を2022年9月30日時点の為替レートで換算

# SoftBank Vision Fund

# 投資損益 (累計)

USDベース  
(SVF1+SVF2+LatAmファンド)

(\$ M)



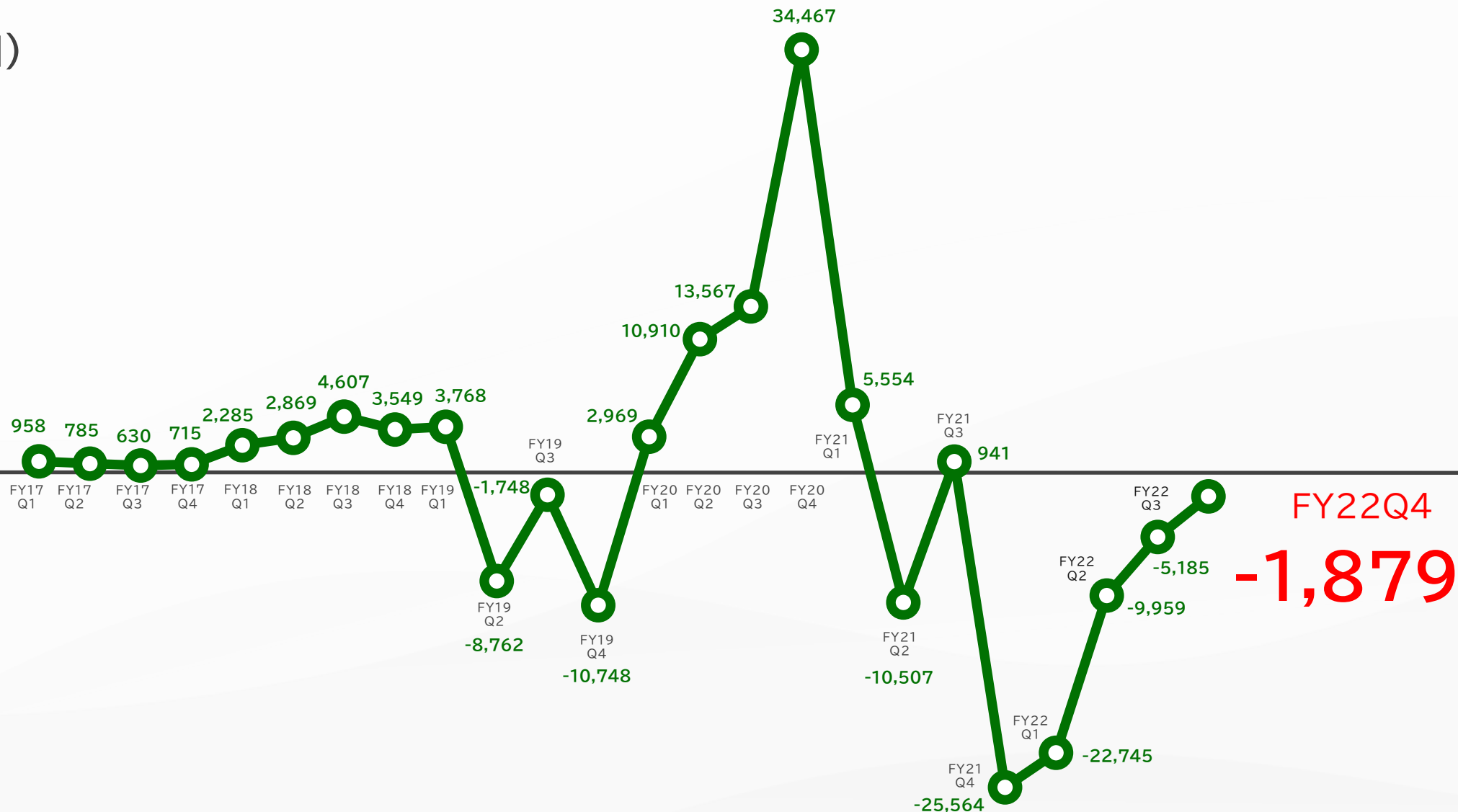
投資損益(累計):SVF1、SVF2およびLatAmファンドからの投資損益の2017年度Q1からの累計上額  
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)



# 投資損益 (四半期)

USDベース  
(SVF1+SVF2+LatAmファンド)

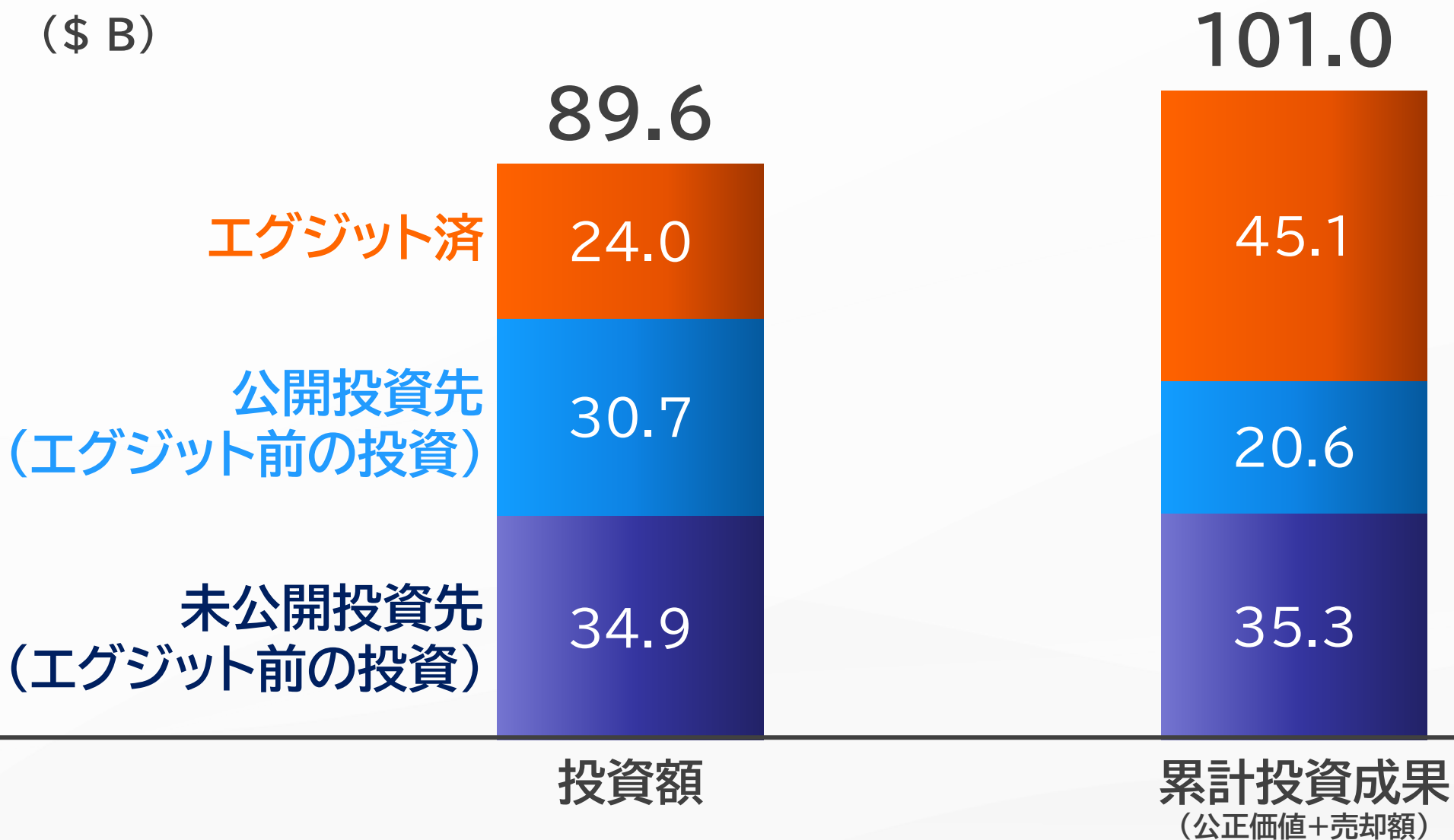
(\$ M)



投資損益(四半期): SVF1、SVF2およびLatAmファンドからの投資損益の四半期計上額  
(当社連結財務諸表の作成における為替換算前、デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)

# SVF1 累計投資成果 (2023年3月末時点)

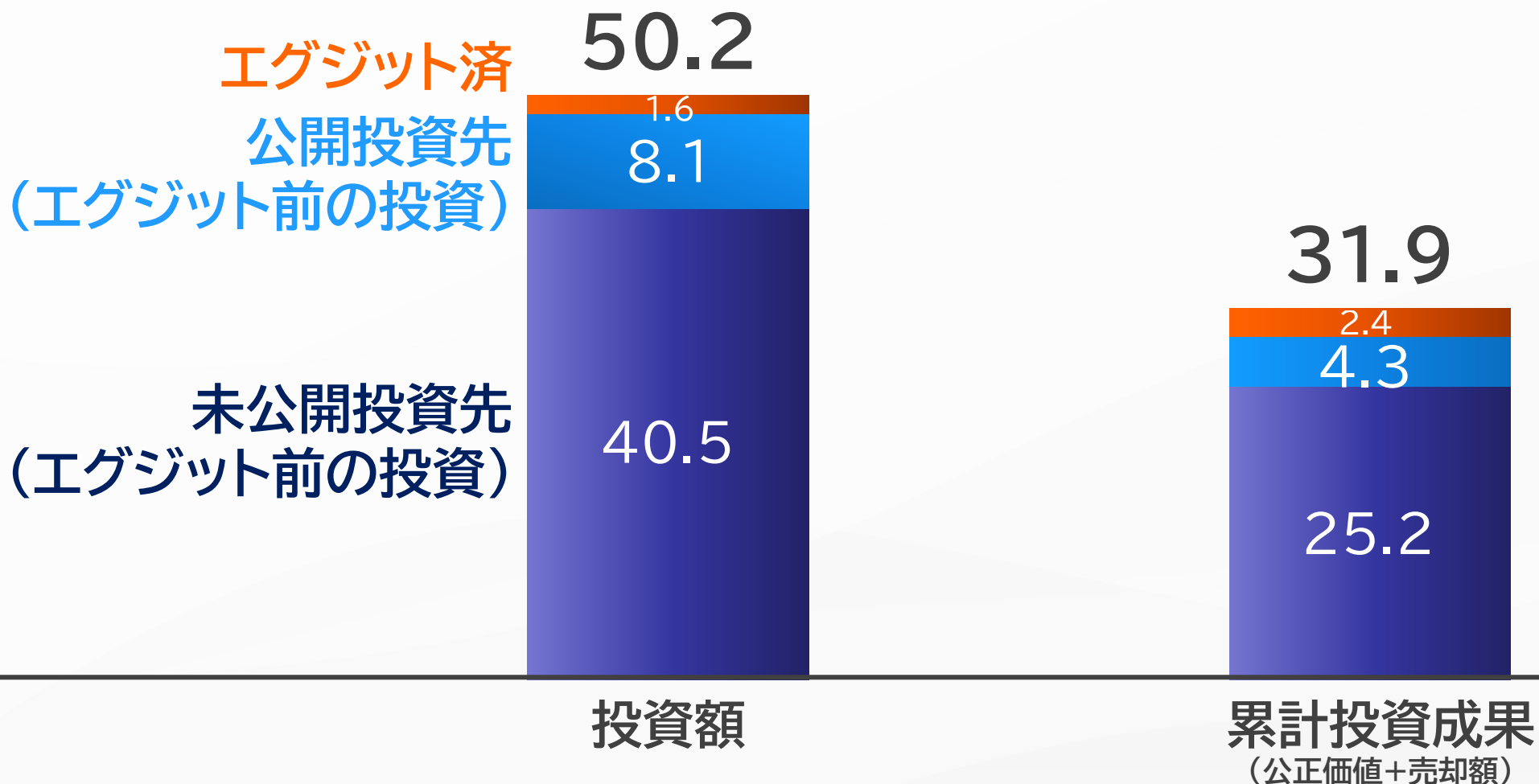
(\$ B)



外部投資家持分および税金等の控除前。投資先の公開/未公開の区分は、2023年3月末時点の状態に基づく。  
エグジット済には、株式交換による処分(売却)、投資に係るデリバティブ関連損益(未決済のデリバティブを含む)、投資先からの利息および配当金を含む。公開投資先には店頭市場で取引されている株式への投資を含む。  
当社からSVF1への移管が決定されていたものの実行されなかった投資について、移管の取りやめを決定するまでの期間に発生した未実現評価損益は累計投資成果に含めていない。

# SVF2 累計投資成果 (2023年3月末時点)

(\$ B)

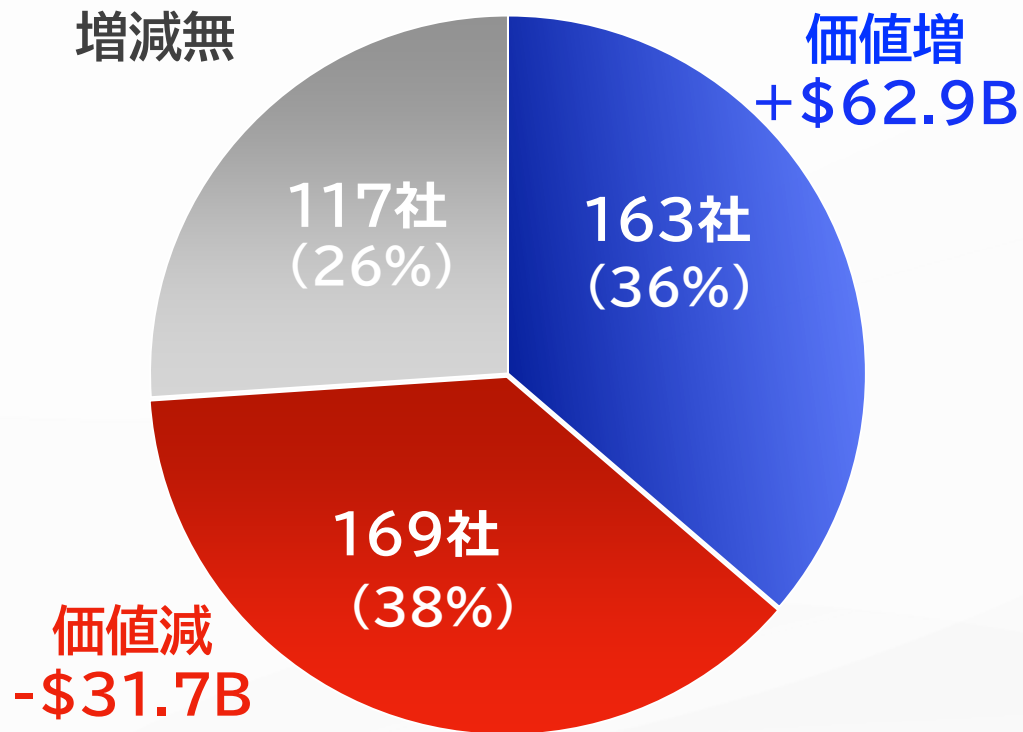


外部投資家持分および税金等の控除前。投資先の公開/未公開の区分は、2023年3月末時点の状態に基づく。  
エグジット済には、投資に係るデリバティブ関連損益(未決済のデリバティブを含む)、投資先からの利息および配当金を含む。公開投資先には店頭市場で取引されている株式への投資を含む。  
SVF2のエグジット前の投資の投資額および公正価値には、投資の取得対価の一部として受領した他会社の非支配持分に係るものを含む。

# ポートフォリオの価値変動 (累計)

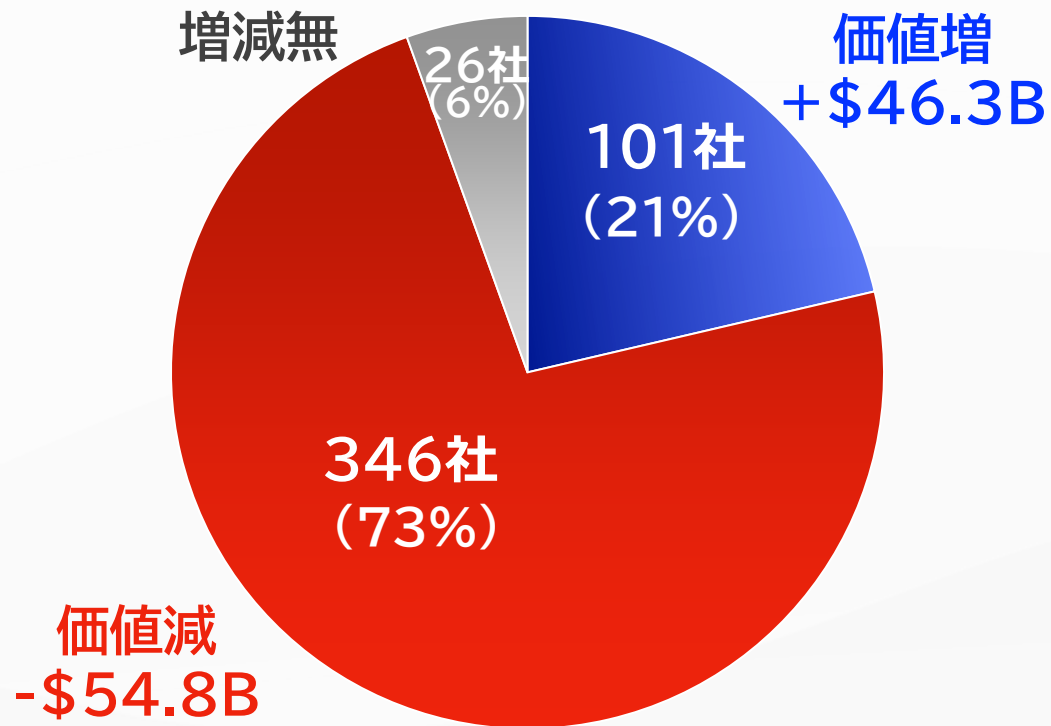
USDベース  
(SVF1+SVF2+LatAmファンド)

2022年3月末



\$31,245M (449社)

2023年3月末



-\$8,524M (473社)

# 投資損益 (2022年度)

USDベース  
(SVF1+SVF2+LatAmファンド)

計-\$39,768M

## 価値増 +\$3,613M (50社)

(価値増の主要因)

+\$540M    +\$876M    +\$9M    +\$2,107M    +\$82M

取引事例  
(14社)

投資先  
業績  
(8社)

市場要因  
(6社)

公開  
投資先  
(9社)

その他  
(13社)

## 価値減 -\$43,381M (359社)

(価値減の主要因)

-\$1,818M    -\$8,869M    -\$15,395M    -\$15,129M    -\$2,169M

取引事例  
(11社)

投資先  
業績  
(178社)

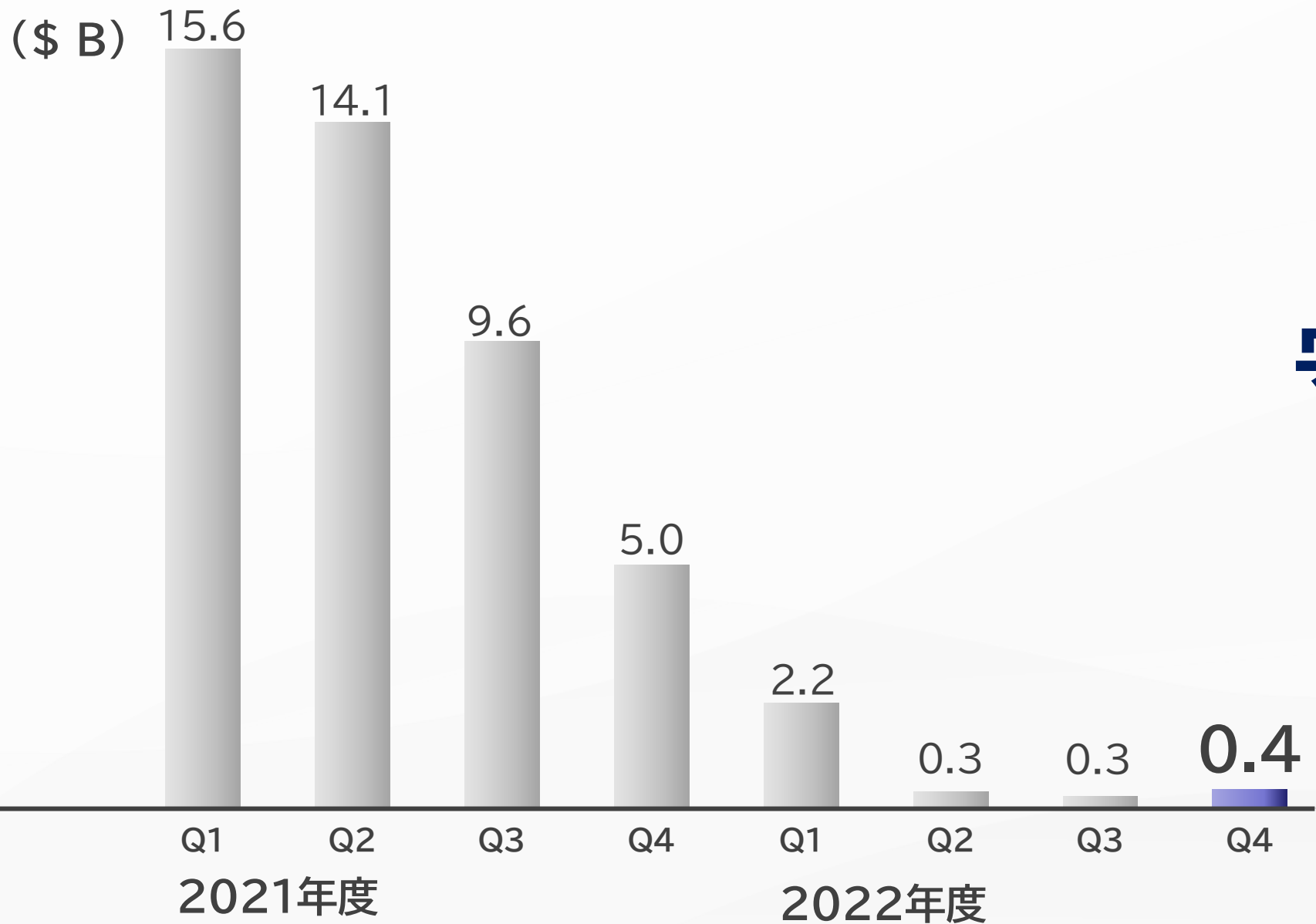
市場要因  
(94社)

公開  
投資先  
(39社)

その他  
(37社)

投資損益:SVF1、SVF2およびLatAmファンドからの投資損益(デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)  
各投資先の2022年度における価値変動の主要因について、SBGAおよびSBIAが合理的と考え決定した区分に基づき分類し表示  
(出所) SBGAおよびSBIA  
市場要因:類似企業株価比較、資本コストの変動などによる価値変動を含む。  
公開投資先:店頭市場で取引されているDiDiとZhangmenへの投資を含む。

# 投資額の推移 (SVF1+2)



## 守りを徹底

# 株式公開、売却・資金化 (SVF1+2 2022年度)

株式公開 4件



売却・資金化 \$7.7B



# 2022年度Q4: 公正価値の変動

合計

-\$2.1B

SVF1

+\$0.2B

SVF2

-\$1.5B

LatAmファンド

-\$0.8B

公開

+\$1.9B

未公開

-\$3.9B



# 投資損益 (2022年度Q4)

USDベース  
(SVF1+SVF2+LatAmファンド)

計-\$1,879M

## 価値増 +\$4,639M (88社)

(価値増の主要因)

+\$95M    +\$222M    +\$1,202M    +\$2,921M    +\$200M

取引事例	投資先 業績	市場要因	公開 投資先	その他
(6社)	(16社)	(16社)	(21社)	(29社)

## 価値減 -\$6,518M (192社)

(価値減の主要因)

-\$82M    -\$4,272M    -\$1,279M    -\$716M    -\$169M

取引事例	投資先 業績	市場要因	公開 投資先	その他
(4社)	(118社)	(20社)	(23社)	(27社)

投資損益:SVF1、SVF2およびLatAmファンドからの投資損益(デリバティブ関連損益含む、外部投資家持分および税金等控除前)  
各投資先の2022年度Q4における価値変動の主要因について、SBGAおよびSBIAが合理的と考え決定した区分に基づき分類し表示  
(出所) SBGAおよびSBIA  
市場要因:類似企業株価比較、資本コストの変動などによる価値変動を含む。  
公開投資先:店頭市場で取引されているDiDiとZhangmenへの投資を含む。

# 投資先の状況

十分な資金を  
保持

94%

12ヵ月以上の運転資金  
を保持している投資先

適切な  
バリュエーション

- マーケット・  
アプローチ
- インカム・  
アプローチ
- 取引事例法

上場期待

\$37B

レイトステージ  
投資の公正価値

規律ある  
資金化戦略

\$56B+

設立来の分配額

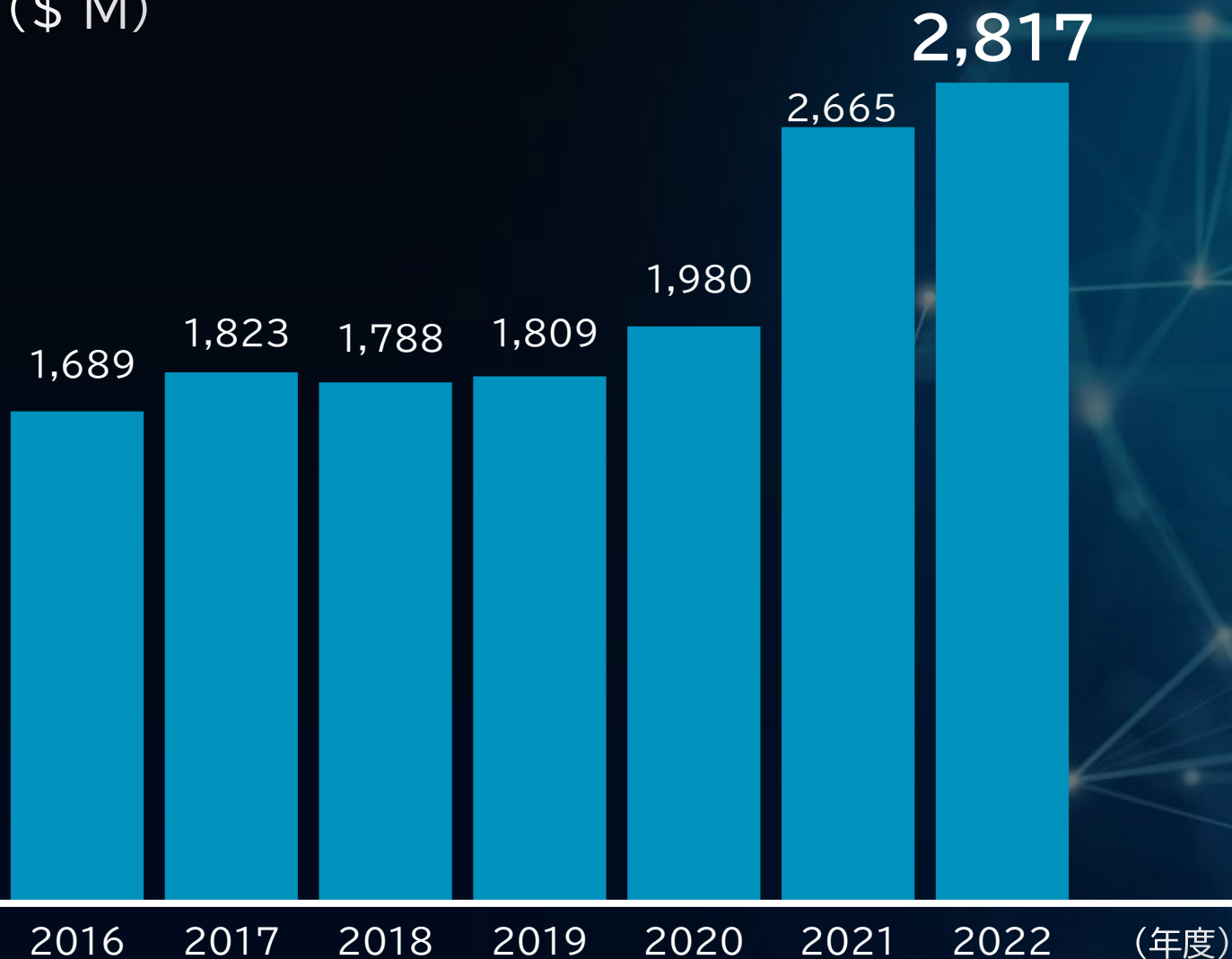
2023年3月末時点  
(出所) SBGAおよびSBIA  
SVF1、SVF2およびLatAmファンドの未公開投資先の公正価値合計のうち、12ヵ月以上の運転資金を保持している投資先の公正価値の割合。データが入手不可能な投資先を除く。  
レイトステージ投資の公正価値 (\$37B) : SVF1、SVF2およびLatAmファンドの投資先のうち、シリーズE以降の投資先の公正価値合計。公正価値は投資額と累計投資損益 (グロス) の合計  
設立来の分配金額: SVF1、SVF2およびLatAmファンドの各ファンドからの設立来の分配額合計  
本スライドはSVFの投資先の状況を説明するために例示としてのみ提供され、第三者から提供された情報に基づいて作成されたものであり、SBIAが正確性について保証するものではない。  
12ヵ月以上の運転資金を保持している投資先の情報は、当該投資先の将来の業績を保証するものではない。

# Arm

# 売上高

(\$ M)

arm



## 年平均成長率

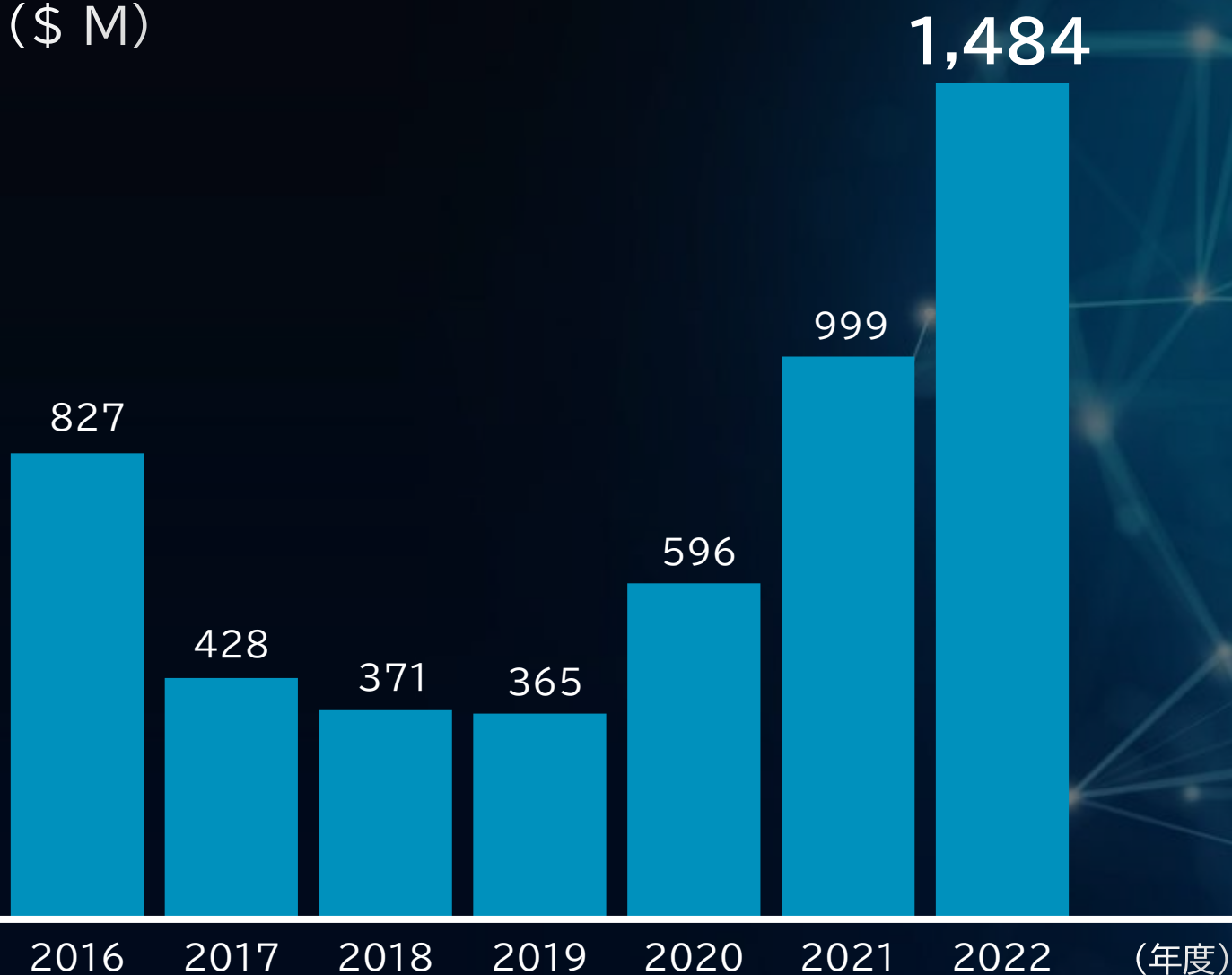
(直近3年間の実績)

# 16%



# 調整後EBITDA

(\$ M)



## 年平均成長率

(直近3年間の実績)

# 60%

2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022 (年度)

軸ラベル

# Arm新規株式公開プラン

# arm

Armは米国SECにForm F-1の  
登録届出書ドラフトを非公開で提出

本新規株式公開の規模及び価格帯は未決定

本新規株式公開は、市場及びその他の状況、  
並びにSECによる審査プロセスの完了が条件



# 2022年度の取り組み

# 環境変化

ロシアによるウクライナ侵攻



米中摩擦の深刻化



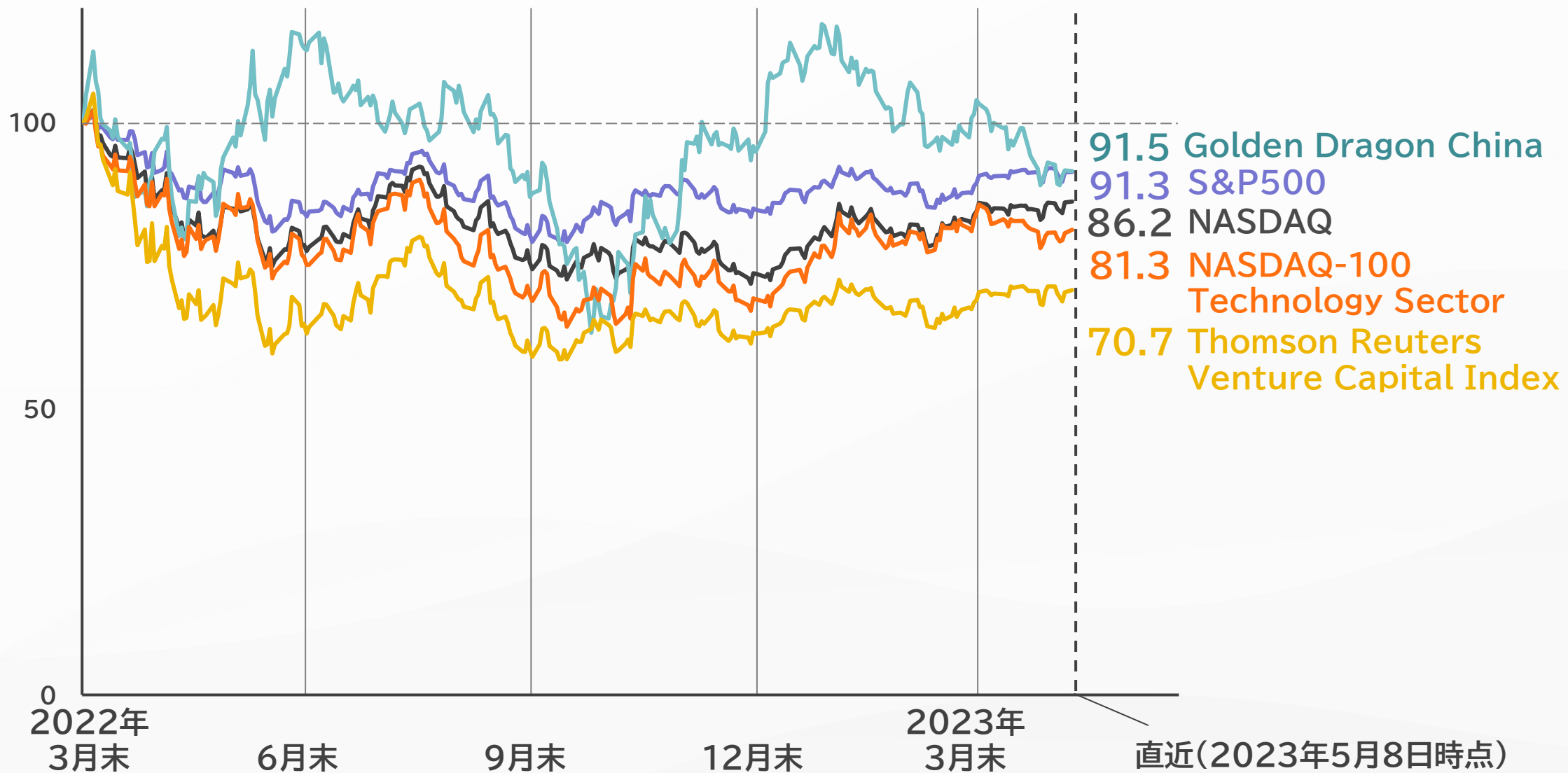
金融システム不安(SVB・クレディスイスなど)



2022年以降  
想定外の混乱が  
続く



# 株式市場動向



# 当社の対応



2022年3月期決算説明会資料

1年前に  
「守り優先」  
を宣言

# 当社の対応



資金化



投資抑制  
SLOW DOWN



組織スリム化



債務削減

## 「守り」の徹底

# 重要指標の変動 (2022年度)

2022年3月末

2023年3月末

NAV  
(時価純資産)

18.5兆円

14.1兆円

LTV  
(純負債 / 保有株式価値)

20.4%

11.0%

手元流動性

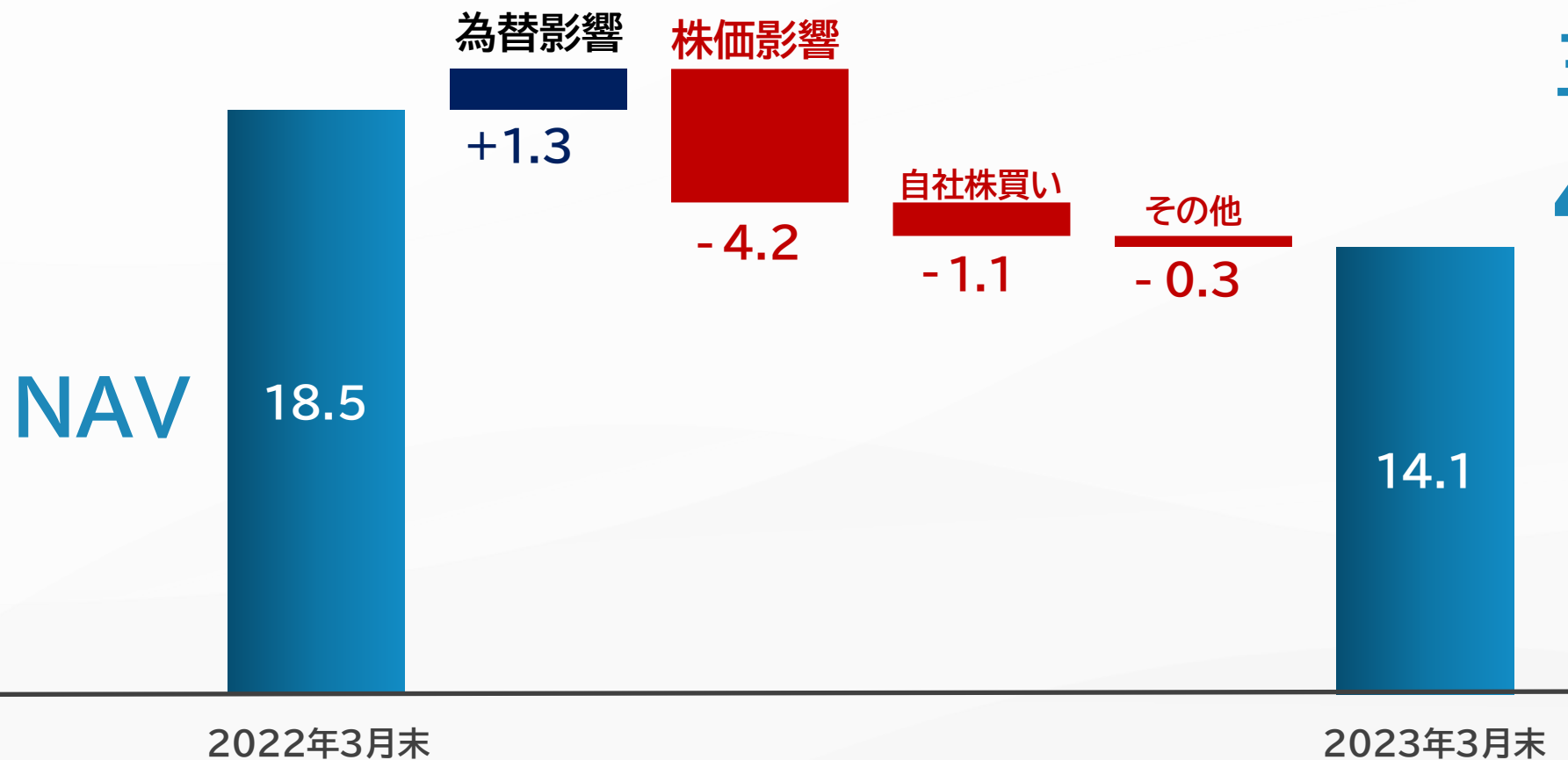
2.9兆円

5.1兆円

NAVおよびLTVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2022年3月末時点)」 「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年3月末時点)」を参照  
手元流動性:現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く)

# NAV増減要因 (2022年度の変動)

(兆円)



主に株価影響で  
4.4兆円減少

# 重要指標の変動 (2022年度Q4)

2022年12月末

2023年3月末

NAV  
(時価純資産)

13.9兆円

14.1兆円

LTV  
(純負債 / 保有株式価値)

18.2%

11.0%

手元流動性

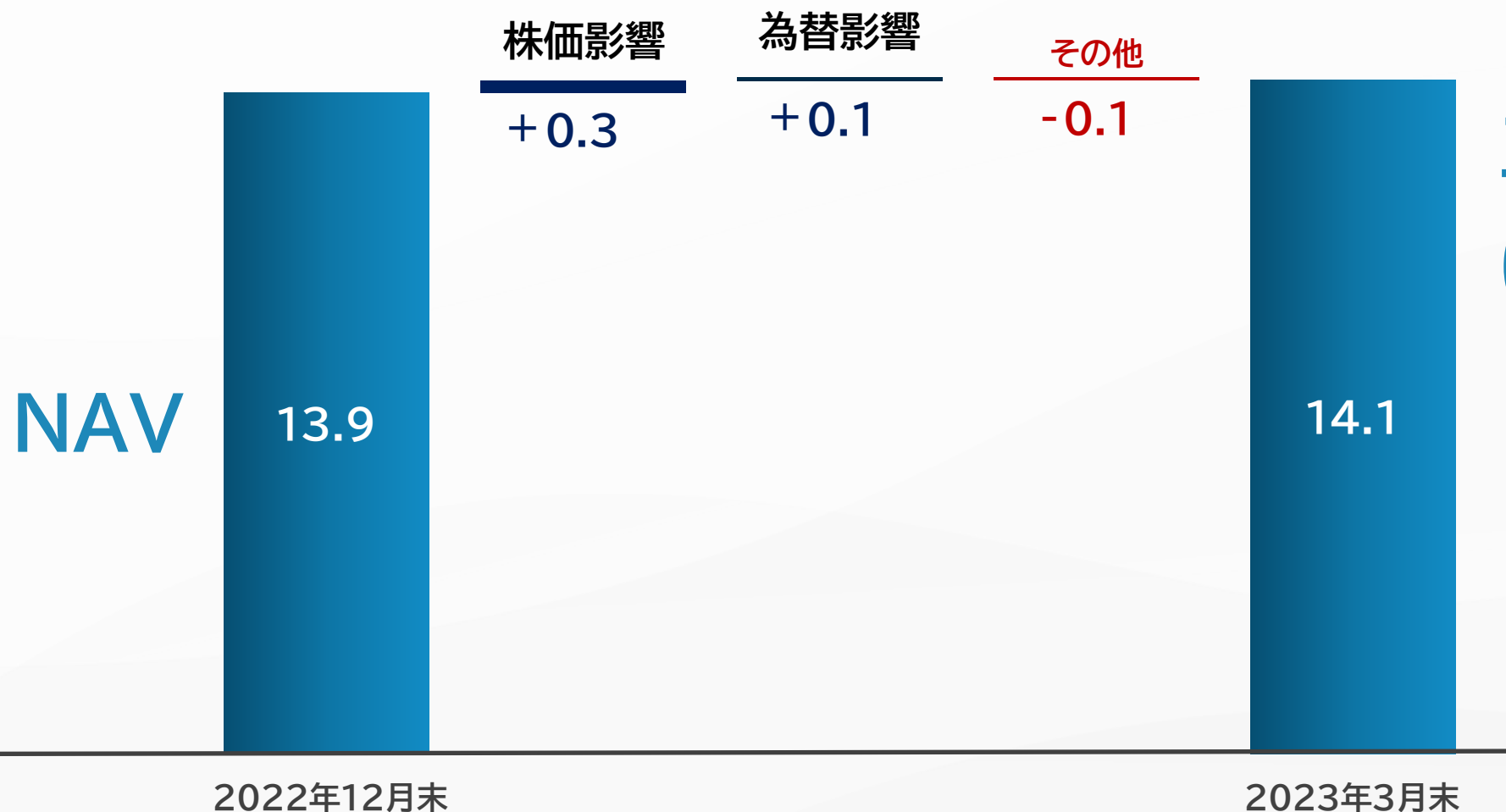
3.8兆円

5.1兆円

NAVおよびLTVの詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2022年12月末時点)」 「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年3月末時点)」を参照  
手元流動性:現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く)

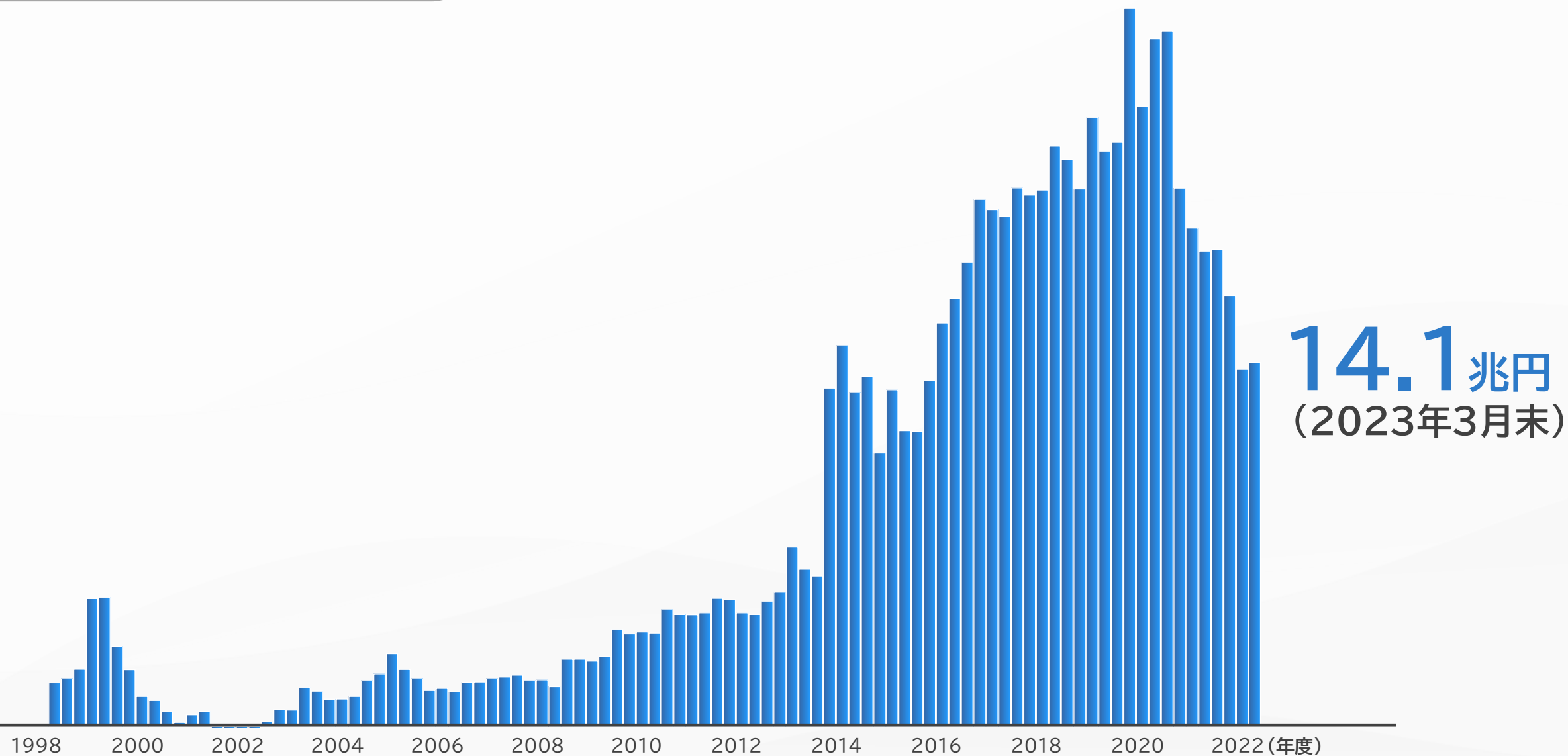
# NAV増減要因 (2022年度Q4の変動)

(兆円)



主に株価影響で  
0.2兆円増加

# NAVの推移

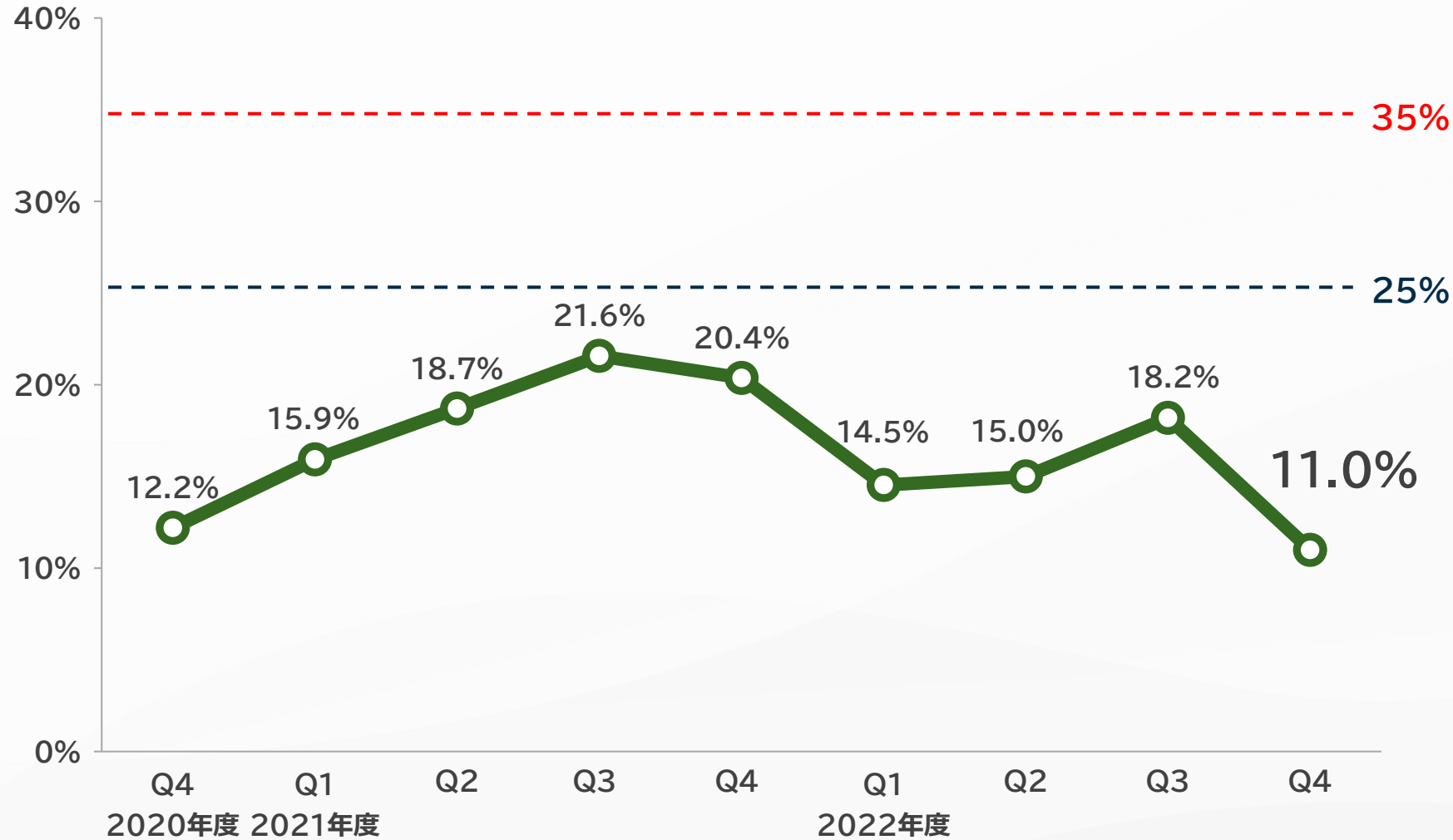


14.1兆円  
(2023年3月末)



# LTVの推移

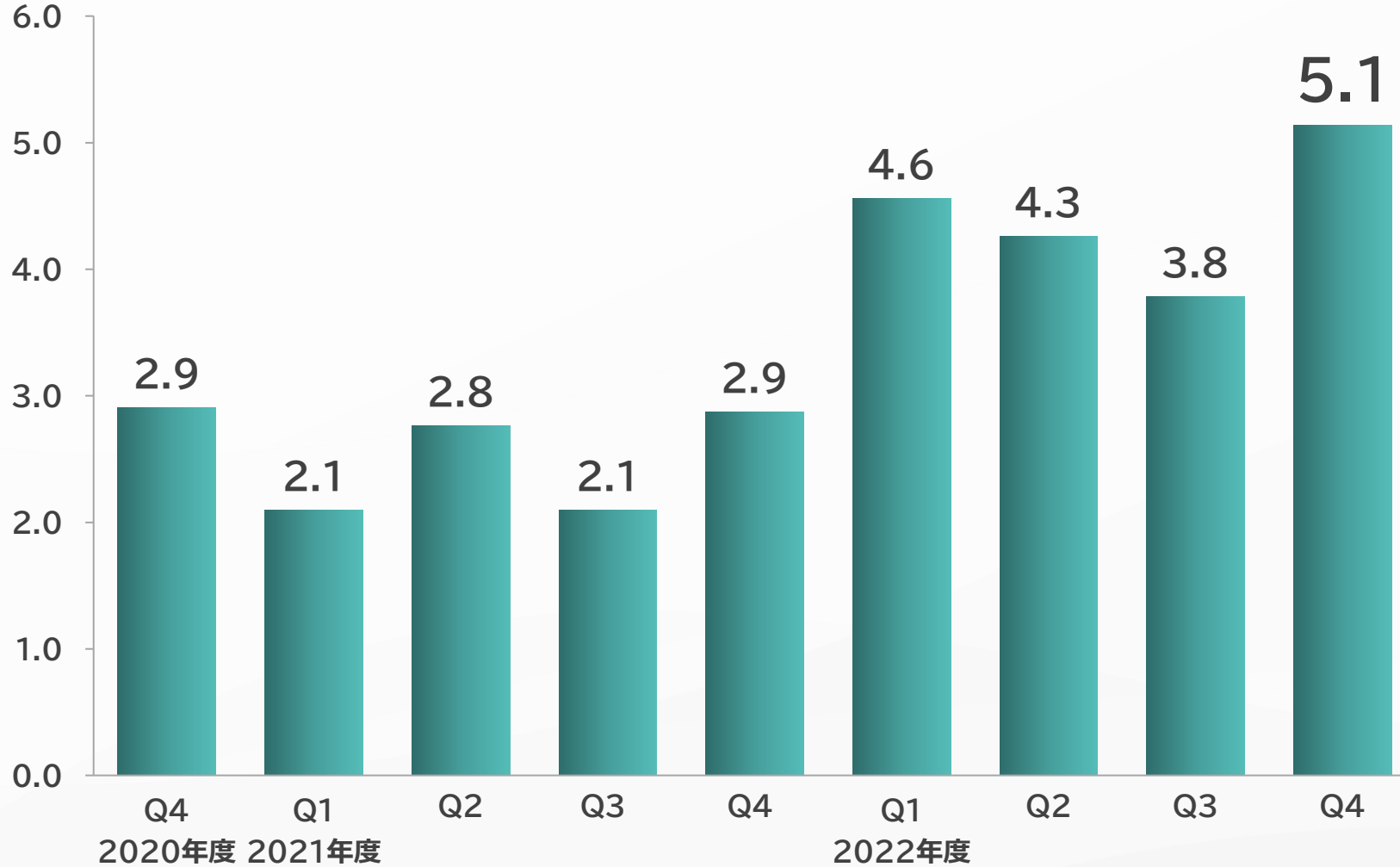
アセットバック・ファイナンス除く



大幅に改善

# 手元流動性の推移

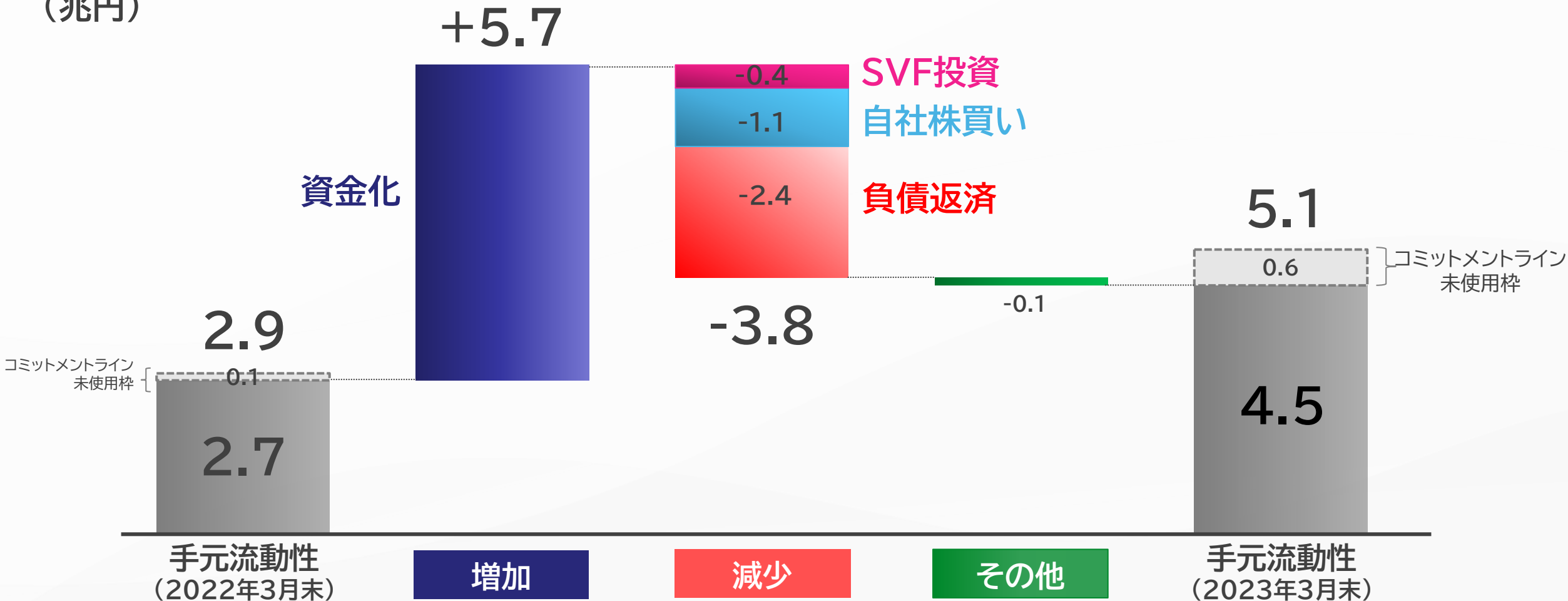
(兆円)



大幅に増加し  
5兆円超に

# 資金化と資本配分 (2022年度)

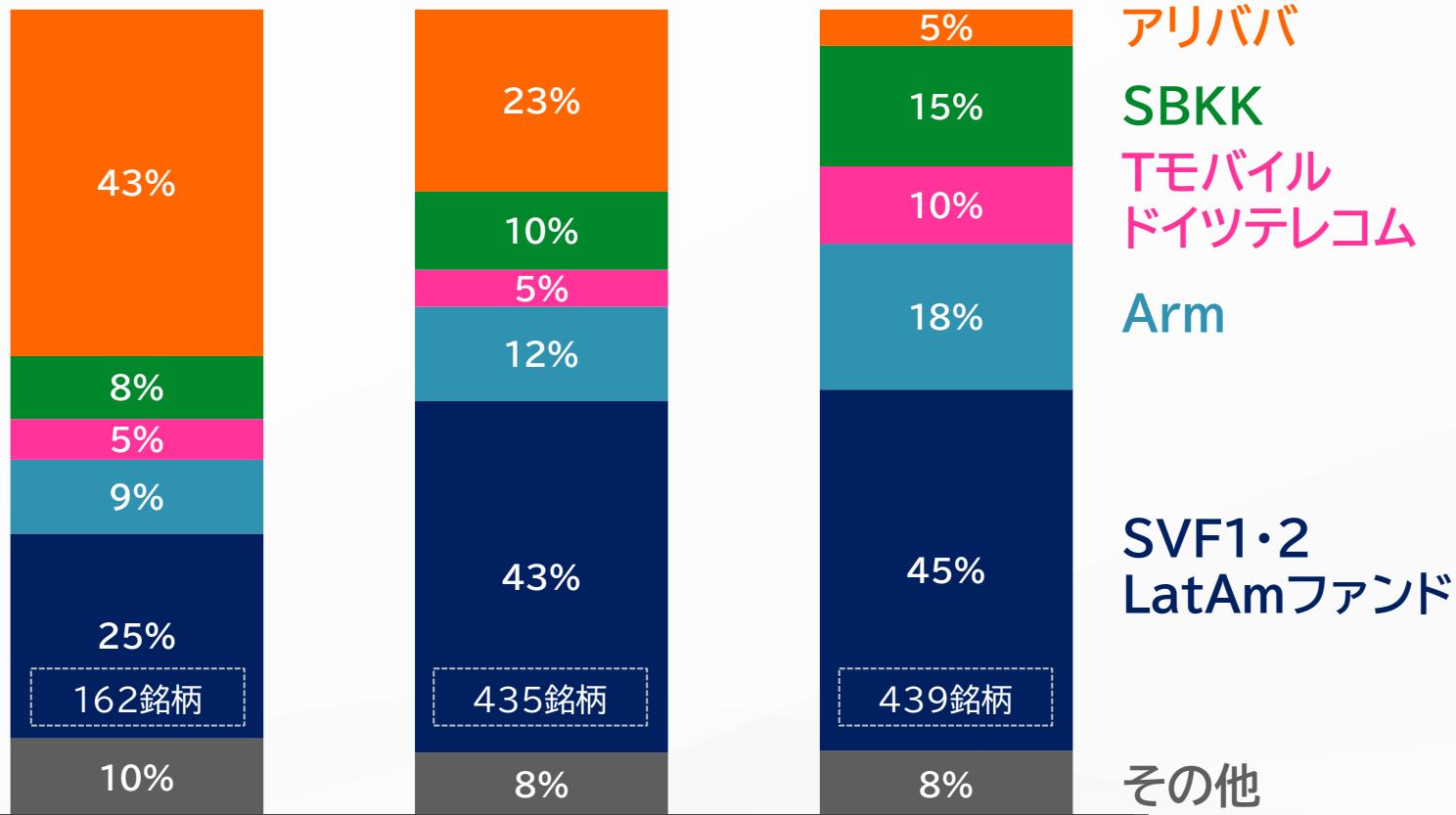
(兆円)



各四半期の平均レート等により円換算  
 手元流動性:現金及び現金同等物+流動資産に含まれる短期投資+コミットメントライン未使用枠。SBG単体ベース(SB Northstarを除く)  
 資金化:SVF1からの分配(+\$1.8B)、SVF2からの分配(+ \$0.5B)、LatAmファンドからの分配(+ \$0.1B)、SB Northstarからの資金還流(+ \$0.9B)、アリババ株式を活用した株式先渡売買契約(+ \$35.5B)、アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる調達(+ \$0.5B)、Tモバイル株式売却(+ \$2.4B)、SoFi Technologies, Inc.株式売却(+ \$0.7B)  
 SVF投資:SVF1&2およびLatAmファンドへの拠出額合計(- \$3.1B)  
 自社株買い:2021年11月8日および2022年8月8日取締役会決議に基づく自己株式の取得額(- ¥1.06T)  
 負債返済:SBGコミットメントライン返済(- \$4.5B)、SBGシニアローン返済(- ¥325.2B)、SBG国内普通社債償還(- ¥337.0B)、SBG外貨建て普通社債の買入れ(- \$2.1B)、SBG米ドル建永久ハイブリッド社債の買入れ(- \$0.75B)、アリババ株式を活用したマージンローン返済(- \$6.0B)、Tモバイル株式を活用したマージンローン返済 (- \$2.1B)。負債返済額は、SBGが期中に発行した国内普通社債(¥385.0B)をネットして記載。

# 保有株式価値：ポートフォリオの分散

アセットバック・ファイナンス除く



## 銘柄分散 進展

2021年  
3月末  
74%

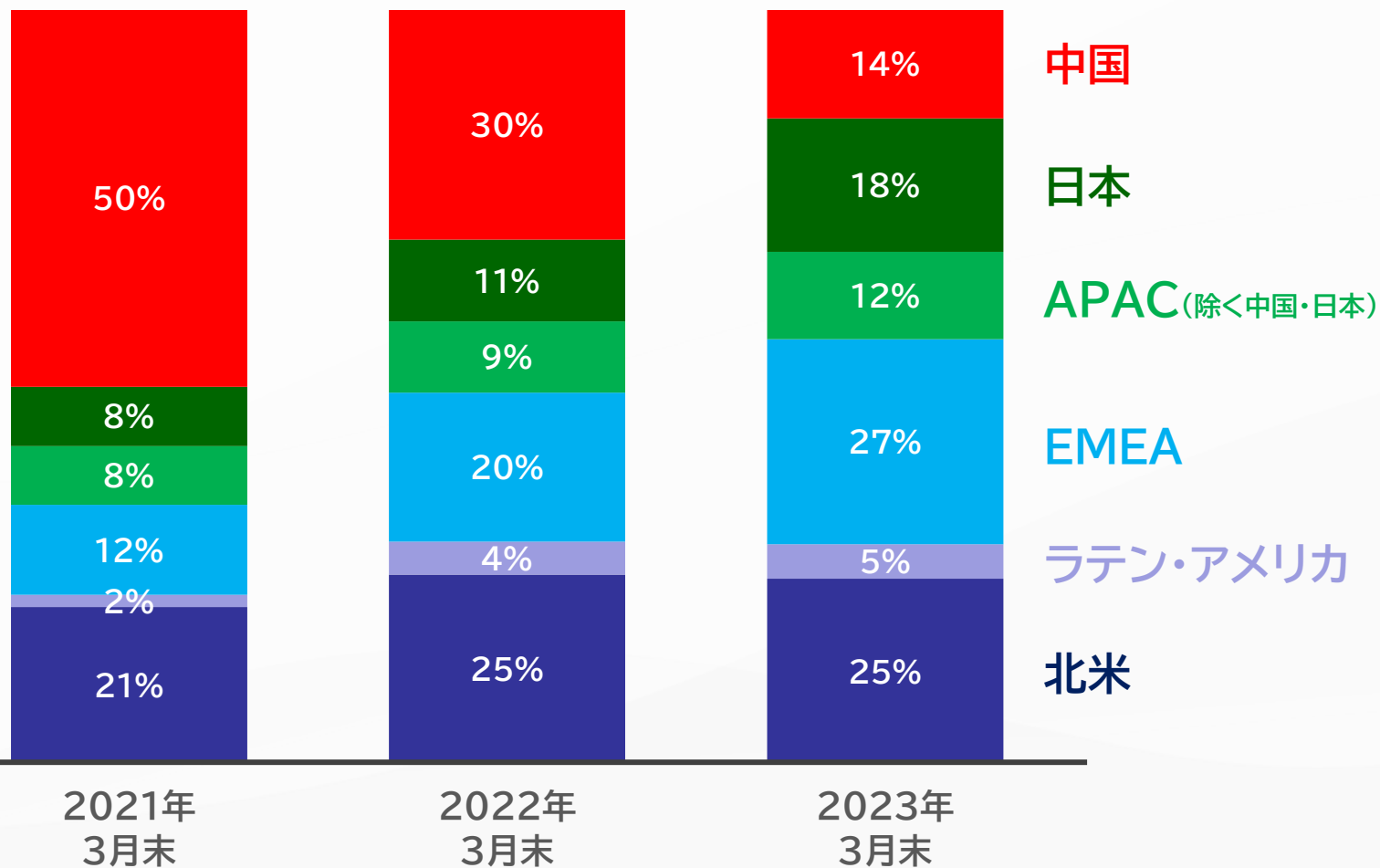
2022年  
3月末  
52%

2023年  
3月末  
41%

上場株式比率

保有株式価値の詳細は、Appendix「NAV・LTVの定義及び算出方法(2022年3月末時点)」「NAV・LTVの定義及び算出方法(2023年3月末時点)」を参照  
 上場株式比率:アリババ、SVF1、SVF2およびLatAmファンドが保有する上場株式、SBKK、Tモバイル、ドイツテレコム、およびその他のうちの上場株式を含む(ただし、SVF1、SVF2およびLatAmファンドはSBGの持分のみを含む)。  
 (i) 2023年3月末時点のSBGの保有株式価値のうち上場株式価値の占める割合(アセットバック・ファイナンス控除後)と、(ii)アームの上場準備状況を踏まえた、2023年3月末時点のSBGのアーム保有株式価値(アセットバック・ファイナンス控除後)を合計すると59%となる。アームは既に上場準備の開始を発表しているが、上場の時期、上場後のアームの価値およびSBGのアーム保有株式価値については未定であり、これらについて何らの保証または示唆を与えるものではない。  
 SVF1、SVF2およびLatAmファンドが保有する銘柄数:普通株式および優先株式を保有する投資先2社については、普通株式への投資と優先株式への投資をそれぞれ1件として投資件数に含めている。  
 2019年10月の当社とWeWorkの合意に基づきSVF2が買い受けた同社担保付シニア債券は1件として投資件数に含めている。

# 保有株式価値：ポートフォリオの分散



地域分散  
も進展

各投資先の本社所在地に基づき地域を分類  
 中国:アリババ、SVF1およびSVF2(中国相当)、その他の中国投資の合計  
 日本:ソフトバンク、SVF1およびSVF2(日本相当)、その他の日本投資の合計  
 APAC(除く中国・日本):SVF1およびSVF2(中国・日本を除くAPAC相当)、その他の中国・日本を除くAPAC投資の合計  
 EMEA:Arm、ドイツテレコム、SVF1およびSVF2(EMEA相当)、その他のEMEA投資等の合計  
 ラテン・アメリカ:LatAmファンド、その他のラテン・アメリカ投資の合計  
 北米:Tモバイル、SVF1およびSVF2(米国相当)、その他の米国投資の合計

# アリババへの投資

74億円

投資総額

9.7兆円

資金化総額

IRR  
57%

(2000年から2023年5月11日まで)



アリババ株式の投資総額及び資金化総額は、各取引日における為替レートにより円換算。  
資金化総額は、デリバティブ取引に係るオプションプレミアムや現金決済時の支出等、資金化に係るコスト等を控除した金額。また、2023年5月11日時点で資金化が完了していない金額を含まない。  
IRRは、2000年から2023年5月11日までの投資及び資金化実績を基に算出。税金考慮前。





盤石な「守り」を構築済

# 2023年度の運営方針



# 「攻め」に向けたチェックポイント

外部要因

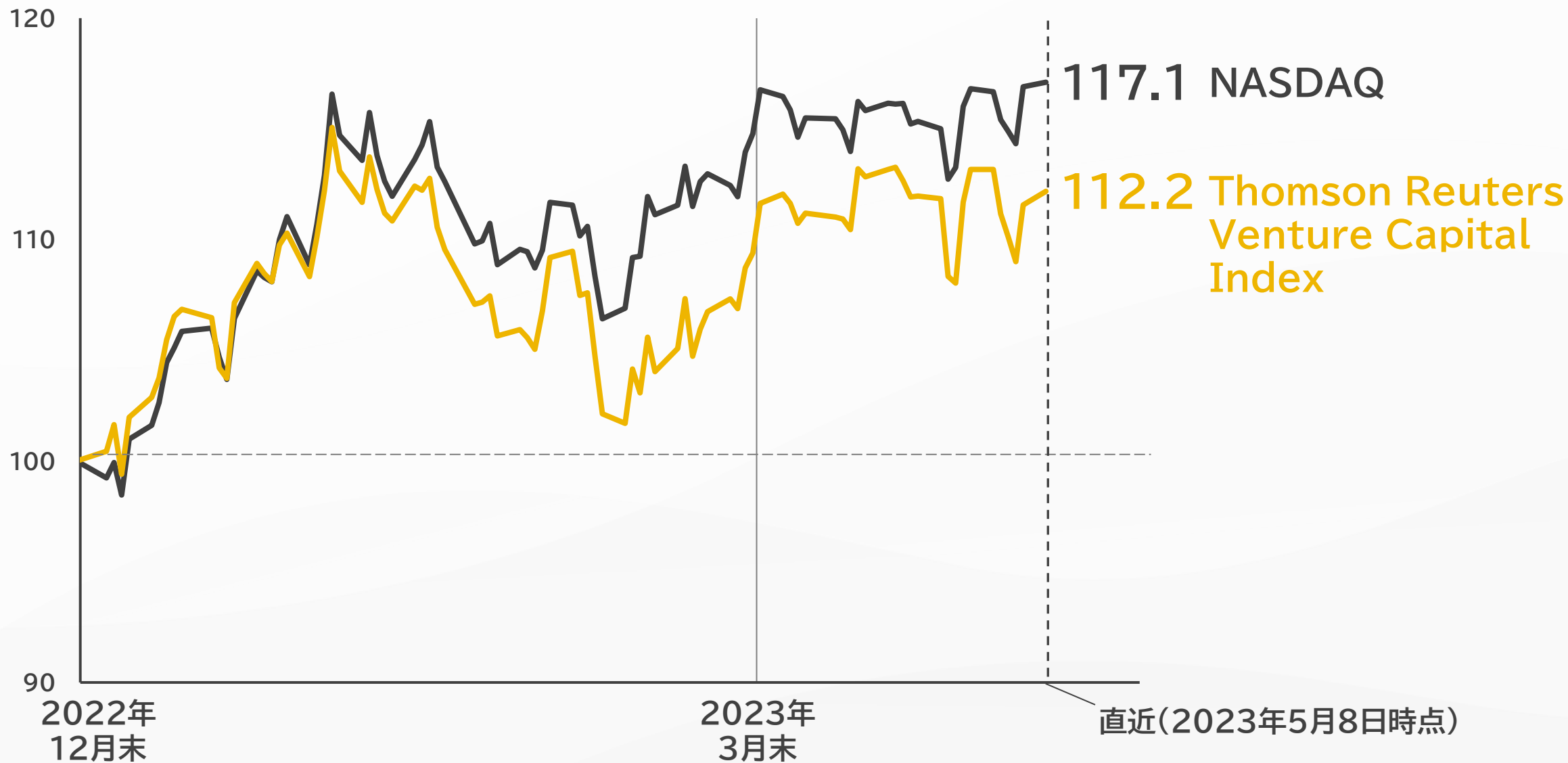
- ✓ 市場環境
- ✓ 地政学リスク
- ✓ 技術進化

内部要因

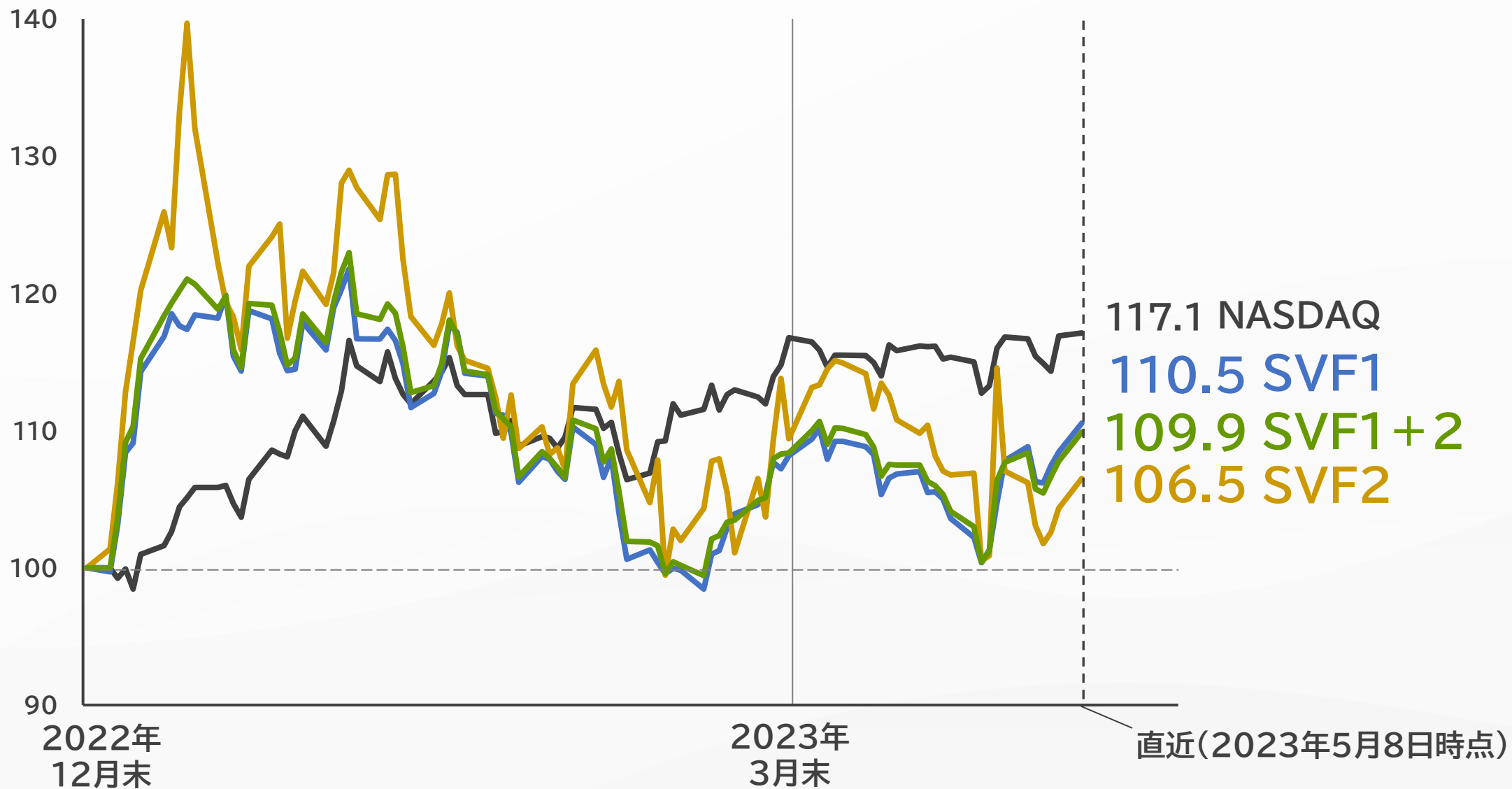
- ✓ ダウンサイドへの耐性
- ✓ 財務余力／投資余力

**O  
D** **F  
E** **F** **E** **N** **C** **E**

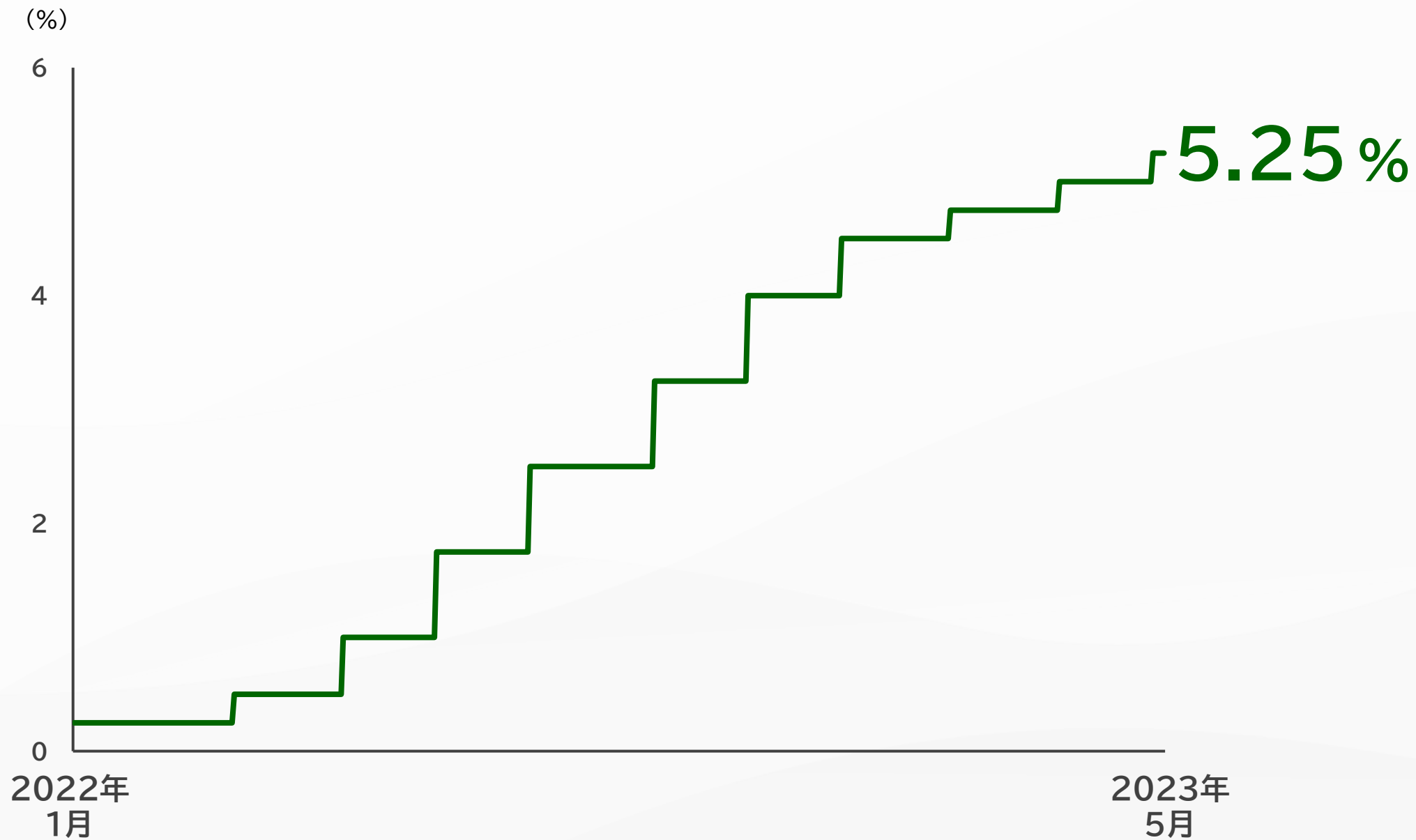
# 直近の市場動向



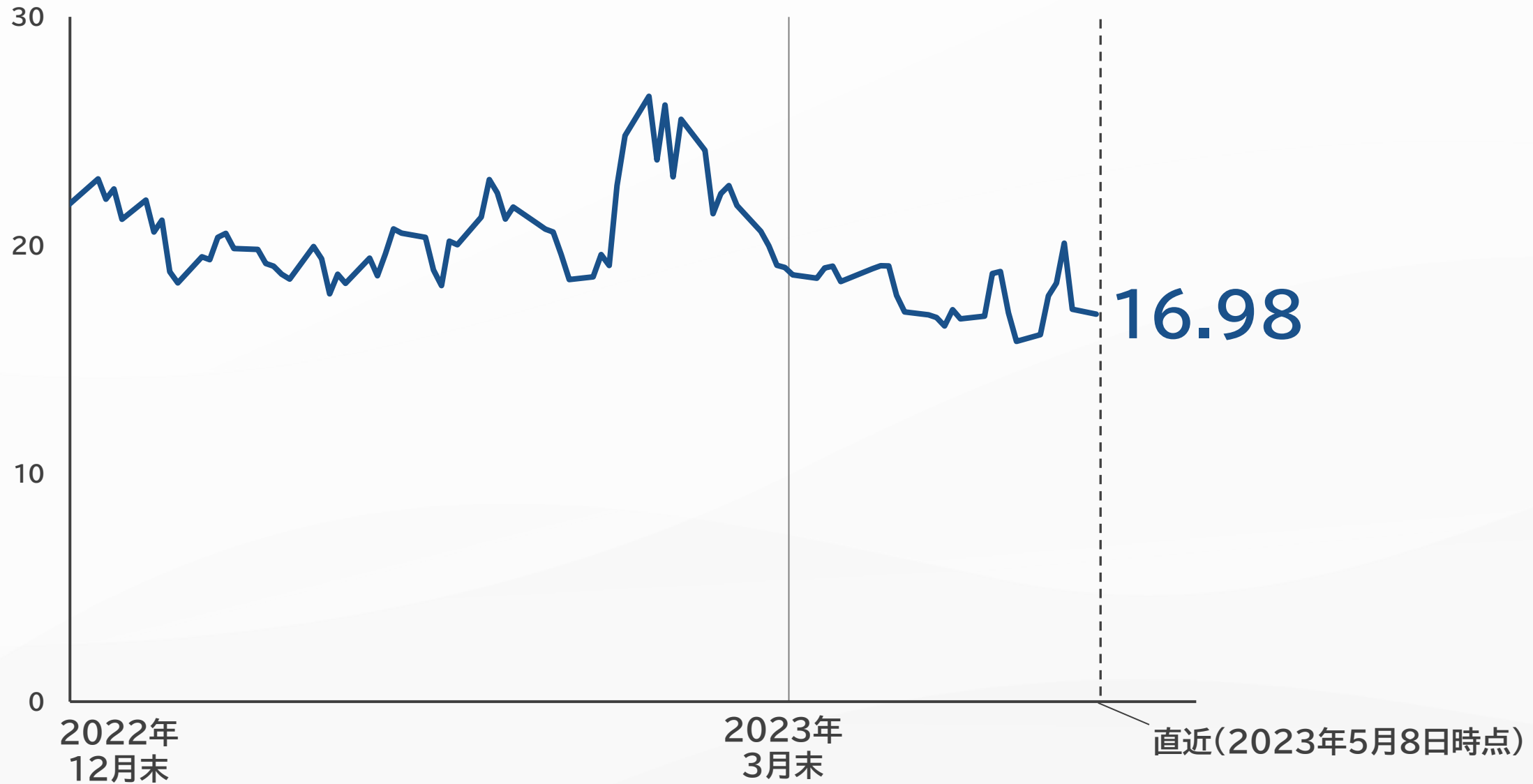
# 直近の市場動向 SVF1+2の上場株の動き



# 直近の市場動向 FF金利



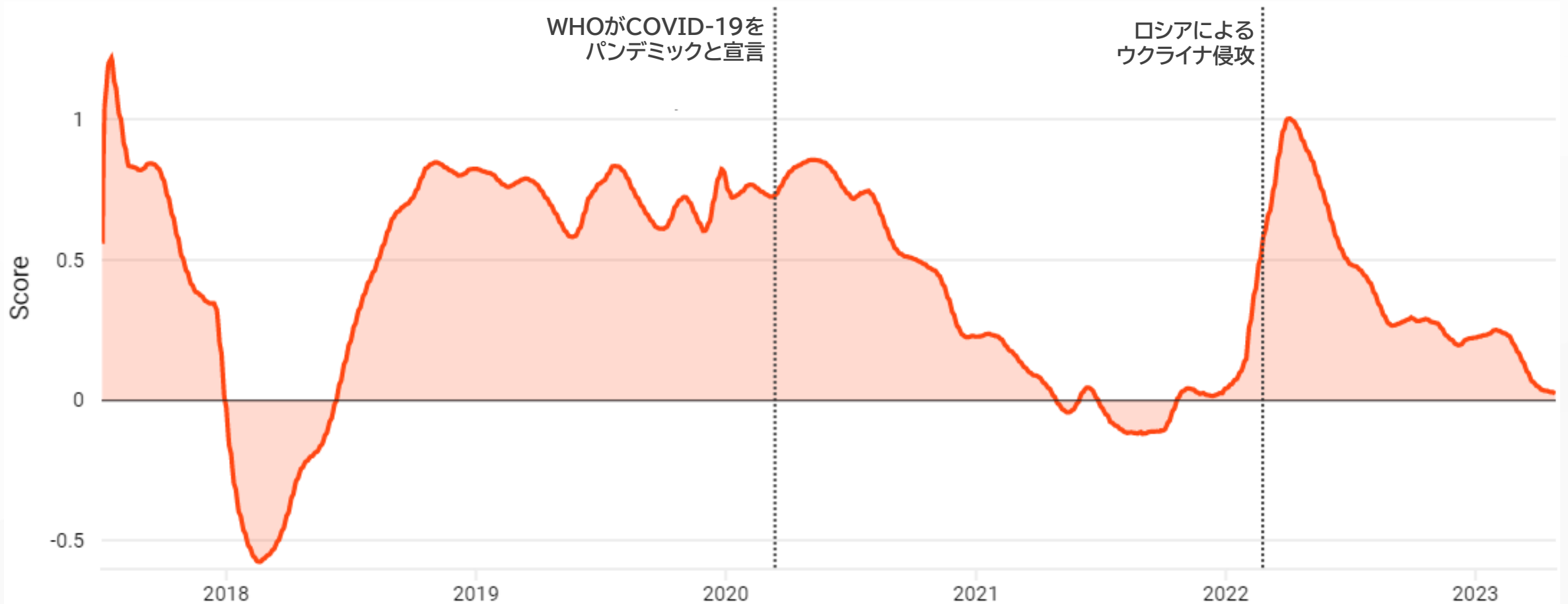
# 直近の市場の動き VIX指数



# 地政学リスク指数


## ロシアによるウクライナ侵攻で大幅に上昇後、下落基調

### BlackRock地政学リスクインディケーター（グローバル指数）




出所: BlackRock Investment Institute (BRII) (<https://www.blackrock.com/corporate/insights/blackrock-investment-institute/interactive-charts/geopolitical-risk-dashboard>), 2023年4月。BlackRock地政学リスクインディケーター (BlackRock Geopolitical Risk Indicator)は、特定の地政学的リスクに関連する証券会社のレポート(Refinitiv経由)と金融ニュース(Dow Jones News)の相対頻度を追跡しています。BRIIは、記事本文のセンチメントがポジティブかネガティブかを調整し、スコアを付けます。このスコアは、各リスクに対する市場の注目度を5年間の歴史と比較して反映したものです。BRIIは、COVIDリスクについては、その年数が限られているため、より短い履歴ウィンドウを使用しています。BRIIは、特定のリスクに対する市場の注目度を測定したいため、他のメディアソースよりも証券会社のレポートを重視します。


# 市場の見通し



景気



インフレ



政策金利



地政学リスク

市場の動揺は沈静化も  
地政学リスクを  
強く憂慮



# 技術の進化





# 生成系AIの加速度的普及

2020年 5月 GPT-3 発表

2022年11月 ChatGPT リリース

2023年 3月 GPT-4 発表

2023年 3月 Googleが対話型  
AI Bard リリース



# AI時代の本格到来

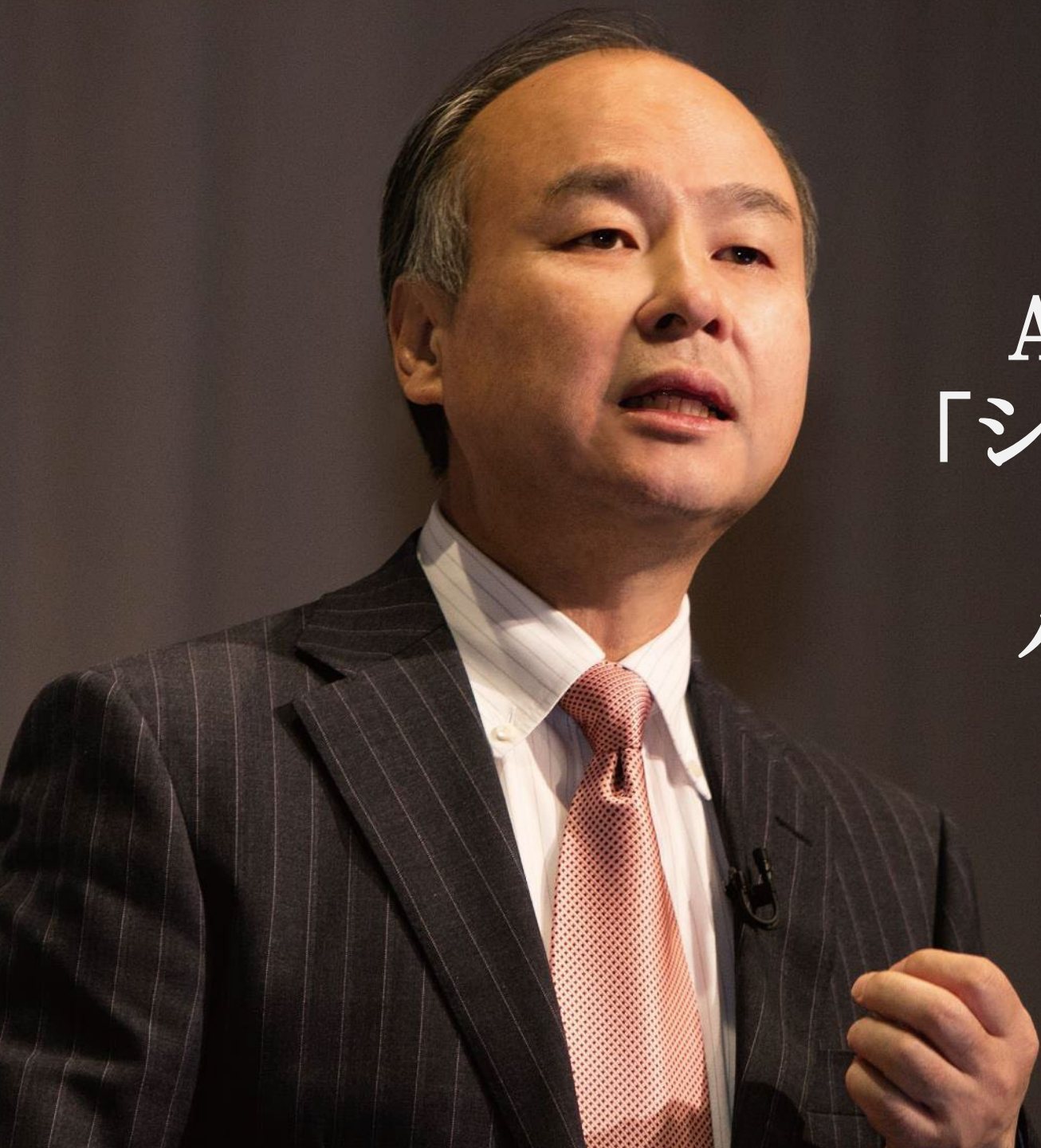
30年以内に起こるビッグデータ

SINGULARITY



データをAIで解析し  
推論する時代がやってくる  
チップは根源的役割を持ち  
人間の知能を超えることになる



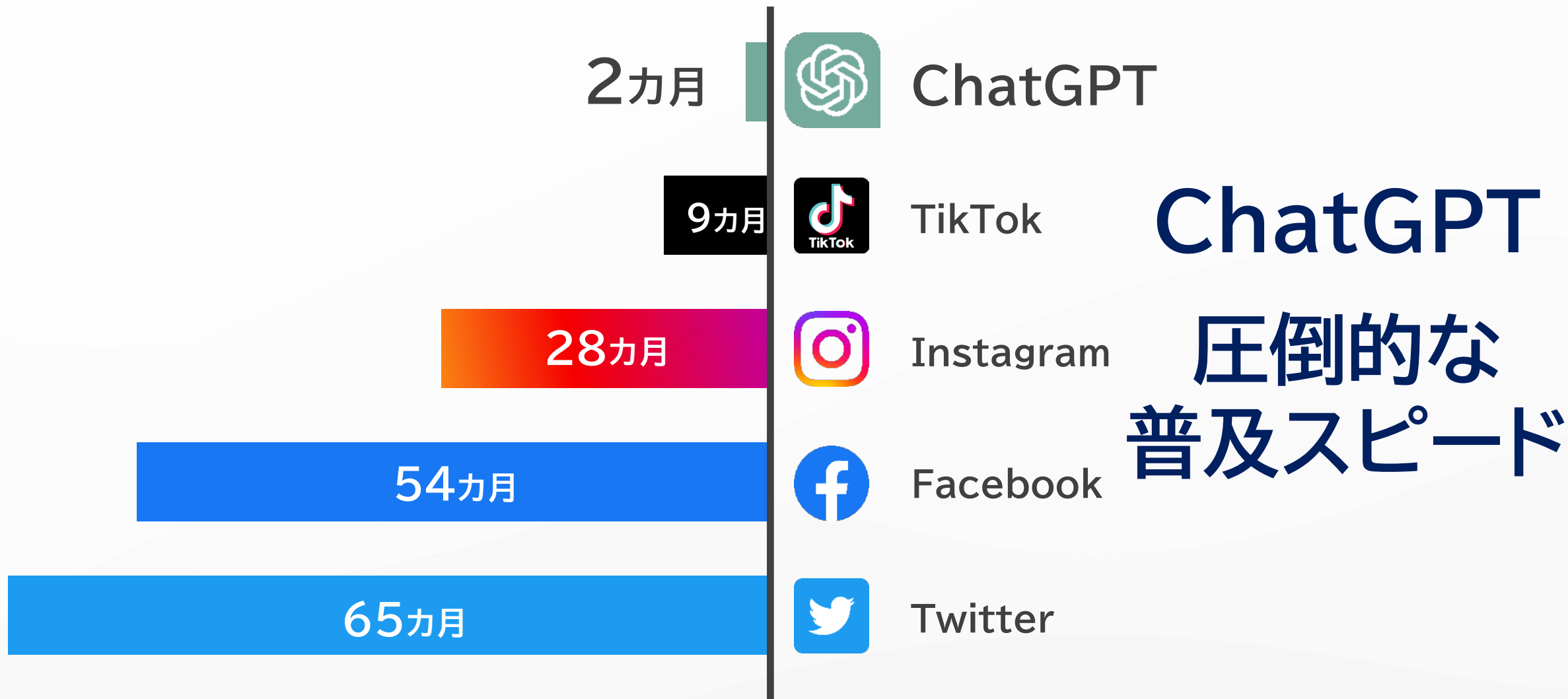


AIが人類の知能を超える  
「シンギュラリティー」が到来し  
人類史上最大の  
パラダイムシフトが起こる

# Generative AI

(生成系AI)

# ユーザー数1億人到達までの期間







翻訳・会話



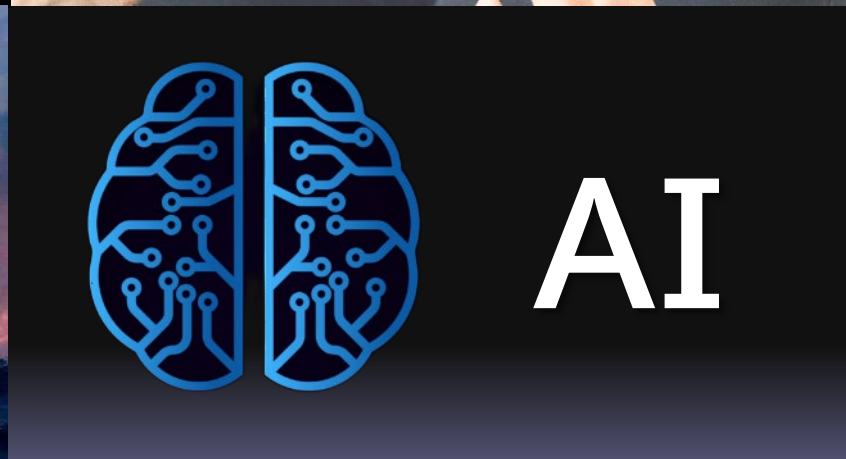
顧客対応



データ分析



絵画作成



AI



ゲーム開発



映像制作



文章生成



プログラミング






# 生産性の向上 社会課題の解決



# 無限の可能性



<p><b>言語モデル</b></p> <p>Large language models like GPT-3 (Generative Pre-trained Transformer 3) have demonstrated remarkable capabilities in generating human-like language and are being used in a variety of applications such as chatbots, text summarization, and language translation. They can understand and respond to complex sentences and</p>	<p><b>画像生成モデル</b></p> 
<p><b>動画生成モデル</b></p> 	<p><b>音声生成モデル</b></p> 

生成系AI

徹底的に活用へ

## 言語モデル

Large language models like GPT-3 (Generative Pre-trained Transformer 3) have demonstrated remarkable capabilities in generating human-like language and are being used in a variety of applications such as chatbots, text summarization, and language translation. They can understand and respond to complex sentences and

## 画像生成モデル



## 動画生成モデル



## 音声生成モデル



# 生成系AI

# 人々の幸せに貢献

市場の  
ボラティリティに  
対する耐久力

技術の進化への  
投資機会を  
逃さない

「守り」と「攻め」の両立



# 2023年度の財務戦略

財務方針の堅持

「守り」「攻め」  
両面に対応  
できる財務運営

# 財務方針の堅持

1

通常時 **LTV25%未満** で運用（異常時でも上限35%）

2

少なくとも **2年分の社債償還資金** を保持

3

SVFや子会社から **継続的な配当収入** を確保

# 「守り」「攻め」に対応できる財務運営

更なるダウンサイド  
にも耐える「守り」

財務の安全性を  
維持しつつ  
情報革命を牽引する  
投資は実行

通常時 LTV25%未満で運用  
(2023年3月末 LTV=11.0%)

少なくとも2年分の社債償還資金を保持  
(2023年3月末 手元流動性=5.1兆円)

# キャピタルアロケーション

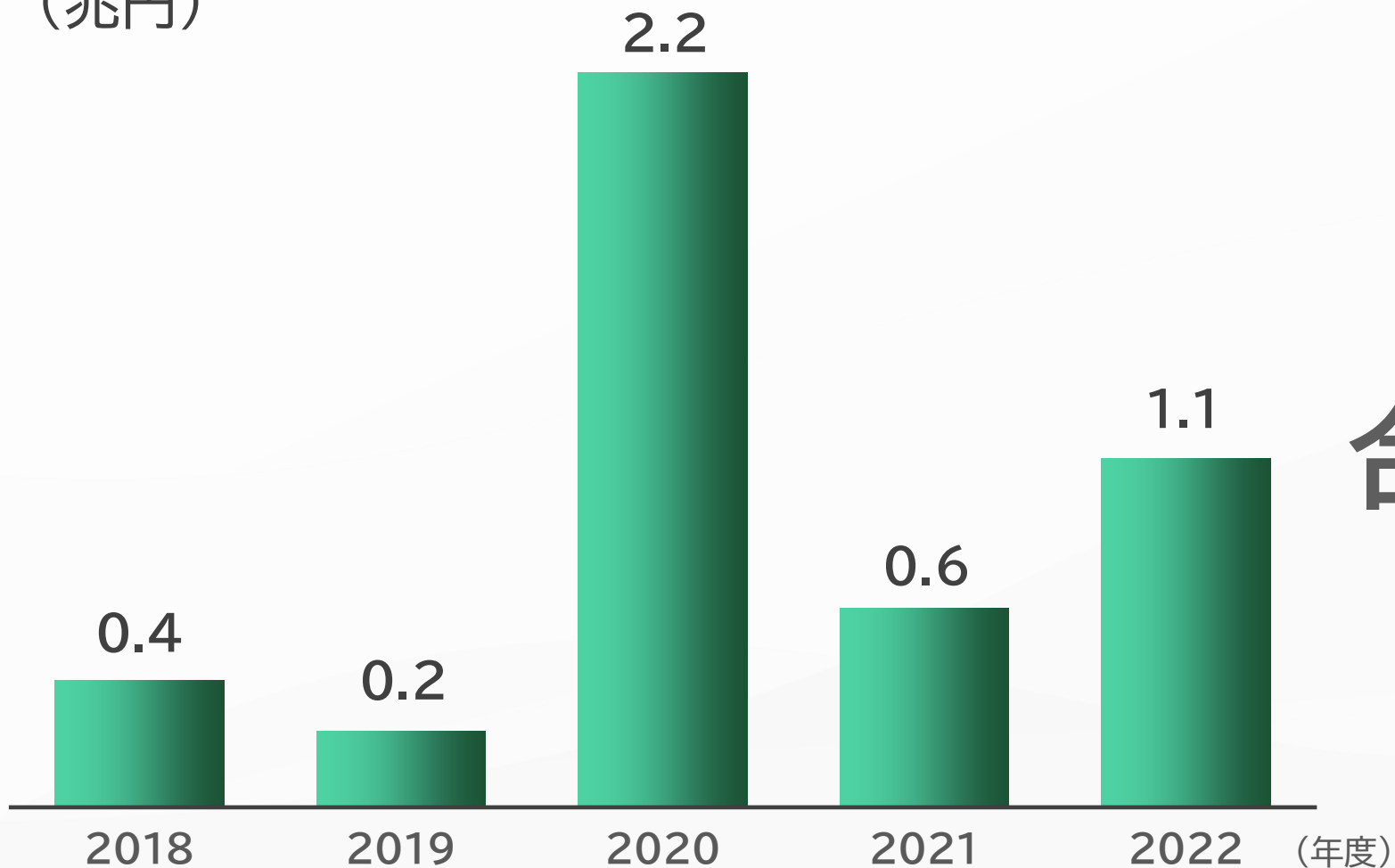


バランスを  
常に考慮

\* NAVディスカウント水準も考慮事項

# 自社株買いの実績

(兆円)



5年間で  
合計4.5兆円  
取得

合計4.5兆円: 2019年2月6日、2020年3月13日、2020年5月15日、2020年6月25日、2020年7月30日、2021年11月8日、2022年8月8日の取締役会決議に基づく自己株式の取得  
なお、上記取締役会決議に基づき取得した自己株式の総数と同数の自己株式を消却済み



# まとめ

1 盤石な「守り」の構えを構築済

2 AI革命の本格始動を背景に「攻め」をうかがう

3 「守り」「攻め」に対応できる財務運営

4 Armは再上場に向けてF-1登録届出書のドラフトを非公開で提出

5 SVFは投資先の価値向上に注力

情報革命で人々を幸せに



# Appendix

# NAV・LTVの定義及び算出方法 (2023年3月末時点)

## 1. NAV (Net Asset Value: 時価純資産)

- NAV = 保有株式 - 純負債

## 2. 保有株式(保有株式価値、アセットバック・ファイナンス調整後)

- Alibaba (アリババ): SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数に同証券の株価を乗じた金額から、アリババ株式を活用した複数の先渡売買契約(フロア契約・カラー契約・フォワード契約・コールスプレッド)のうち、未決済分の満期決済金額(同社株価で算出)の合計額を控除して算出
- SBKK: SBGの保有株式数に同社株式の株価を乗じ、同社株式を活用したマージンローンの負債残高相当額等を控除して算出
- SVF1: SVF1の保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込み金額等
- SVF2: SVF2の保有資産価値相当に対するSBGの持分等
- LatAm Funds: LatAm Fundsの保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込み金額
- Tモバイル: 下記の(a)~(c)の合計から(d)及び(e)を控除して算出
  - (a) SBGの保有株式数に同社株式の株価を乗じた価値(ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数(2023年3月末時点: 34,971,809株)を含む)
  - (b) 一定の条件下でSBGがTモバイル株式(48,751,557株)を無償で取得できる権利(条件付対価)の公正価値
  - (c) 2020年6月にTモバイルによる現金強制転換証券(Cash Mandatory Exchangeable Trust Securities)を発行する信託へのTモバイル株式の売却取引に関連して受領した、一定の条件下でSBGの子会社がTモバイル株式を取得できる権利の公正価値
  - (d) ドイツテレコムが保有する未行使の株式購入オプションに係るデリバティブ金融負債の金額
  - (e) Tモバイル株式を活用した先渡売買契約(カラー契約)の満期決済金額(同社株価で算出)
- ドイツテレコム: SBGの保有株式数に同社株価を乗じ、同社株式を活用したカラー取引の満期決済金額を控除して算出
- Arm(アーム): SVF1において算出されたアームの全株式の公正価値に基づくSBG持分の公正価値から、SBGが保有する同社株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額を控除して算出(希薄化前の発行済株式に対するSBGの持分: 75.01%)
- その他: 以下(f)~(h)の合計
  - (f) 上場株式: SBGの保有株式数に各上場株式の株価を乗じて算出
  - (g) 非上場株式: SBGが保有する未上場株式等の公正価値(公正価値で測定していない株式等はSBGのBS上の簿価)に基づいて算出
  - (h) SB Northstar: SB NorthstarのNAVに対するSBGの持分に、SBGが保有するNVIDIA Corporation株式数に同社株価を乗じた価値を加算して算出

## 3. 純負債 (アセットバック・ファイナンス調整後)

- 純負債 = SBGの純有利子負債
- SBGの純有利子負債 = 連結純有利子負債 - 独立採算子会社等の純有利子負債 - その他調整
- 連結純有利子負債にはPayPay銀行株式会社の銀行業の預金及び手元流動性を含まない
- 独立採算子会社等の純有利子負債: SBKK(Zホールディングス株式会社及びPayPay株式会社をはじめとする子会社を含む)、SVF1、SVF2、LatAm Funds及びアーム等の独立採算子会社、ならびにSB Northstarの有利子負債合計から現預金等合計を減算
- その他調整: 以下の(i)~(q)の調整額の合計
  - (i) 2016年9月発行 円建てハイブリッド債: 連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
  - (j) 2017年7月発行 ドル建てハイブリッド債: 連結会計上、全額が資本計上されているため50%を有利子負債に加算
  - (k) 2017年11月実行 円建てハイブリッドローン: 連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
  - (l) 2021年2月及び6月発行 円建てハイブリッド債: 連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
  - (m) アリババ株式を活用した複数の先渡売買契約(フロア契約・カラー契約・フォワード契約)に係る株式先渡契約金融負債を控除
  - (n) SBKK株式を活用したマージンローンの負債残高相当額等を控除
  - (o) Tモバイル株式を活用した先渡売買契約(カラー契約)に係る株式先渡契約金融負債を控除
  - (p) ドイツテレコム株式を活用したカラー取引に係る負債残高相当額を控除
  - (q) アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額を控除

## 4. LTV (純負債/保有株式)

- LTV = 純負債 ÷ 保有株式

## 5. その他

- 株価: 2023年3月31日終値
- 為替: 1ドル = 133.53円

- SBG = ソフトバンクグループ株式会社、アリババ = Alibaba Group Holding Limited、SBKK = ソフトバンク株式会社、SVF1 = ソフトバンク・ビジョン・ファンド1、SVF2 = ソフトバンク・ビジョン・ファンド2、LatAm Funds = ソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド、Tモバイル = T-Mobile US, Inc.、ドイツテレコム = Deutsche Telekom AG、アーム = Arm Limited
- 別段記載のない限り税金考慮前
- 当社の想定であり、SBGの普通株式を含むいかなる有価証券の価値や投資判断を示唆するものではありません。

# NAV・LTVの定義及び算出方法 (2022年12月末時点)

## 1. NAV (Net Asset Value: 時価純資産)

- NAV = 保有株式 - 純負債

## 2. 保有株式(保有株式価値、アセットバック・ファイナンス調整後)

- Alibaba (アリババ): SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数に同証券の株価を乗じた金額から、アリババ株式を活用した複数の先渡売買契約(フロア契約・カラー契約・フォワード契約・コールスプレッド)のうち、未決済分の満期決済金額(同社株価で算出)の合計額を控除して算出
- SBKK: SBGの保有株式数に同社株式の株価を乗じ、同社株式を活用したマージンローンの負債残高相当額等を控除して算出
- SVF1: SVF1の保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込み金額等
- SVF2: SVF2の保有資産価値相当に対するSBGの持分等
- LatAm Funds: LatAm Fundsの保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込み金額
- Tモバイル: 下記の(a)~(c)の合計から(d)及び(e)を控除して算出
  - (a) SBGの保有株式数に同社株式の株価を乗じた価値(ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数(2022年12月末時点:34,971,809株)を含む)
  - (b) 一定の条件下でSBGがTモバイル株式(48,751,557株)を無償で取得できる権利(条件付対価)の公正価値
  - (c) 2020年6月にTモバイルによる現金強制転換証券(Cash Mandatory Exchangeable Trust Securities)を発行する信託へのTモバイル株式の売却取引に関連して受領した、一定の条件下でSBGの子会社がTモバイル株式を取得できる権利の公正価値
  - (d) ドイツテレコムが保有する未行使の株式購入オプションに係るデリバティブ金融負債の金額
  - (e) Tモバイル株式を活用した先渡売買契約(カラー契約)の満期決済金額(同社株価で算出)
- ドイツテレコム: SBGの保有株式数に同社株価を乗じ、同社株式を活用したカラー取引の満期決済金額を控除して算出
- Arm(アーム): SVF1において算出されたアームの全株式の公正価値に基づくSBG持分の公正価値から、SBGが保有する同社株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額を控除して算出(希薄化前の発行済株式に対するSBGの持分:75.01%)
- その他: 以下(f)~(h)の合計
  - (f) 上場株式: SBGの保有株式数に各上場株式の株価を乗じて算出
  - (g) 非上場株式: SBGが保有する未上場株式等の公正価値(公正価値で測定していない株式等はSBGのBS上の簿価)に基づいて算出
  - (h) SB Northstar: SB NorthstarのNAVに対するSBGの持分に、SBGが保有するNVIDIA Corporation株式数に同社株価を乗じた価値を加算して算出

## 3. 純負債 (アセットバック・ファイナンス調整後)

- 純負債 = SBGの純有利子負債
- SBGの純有利子負債 = 連結純有利子負債 - 独立採算子会社等の純有利子負債 - その他調整
- 連結純有利子負債にはPayPay銀行株式会社の銀行業の預金及び手元流動性を含まない
- 独立採算子会社等の純有利子負債: SBKK(Zホールディングス株式会社及びPayPay株式会社をはじめとする子会社を含む)、SVF1、SVF2、LatAm Funds及びアーム等の独立採算子会社、ならびにSB Northstarの有利子負債合計から現預金等合計を減算
- その他調整: 以下の(i)~(q)の調整額の合計
  - (i) 2016年9月発行 円建てハイブリッド債: 連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
  - (j) 2017年7月発行 ドル建てハイブリッド債: 連結会計上、全額が資本計上されているため50%を有利子負債に加算
  - (k) 2017年11月実行 円建てハイブリッドローン: 連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
  - (l) 2021年2月及び6月発行 円建てハイブリッド債: 連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
  - (m) アリババ株式を活用した複数の先渡売買契約(フロア契約・カラー契約・フォワード契約)に係る株式先渡契約金融負債を控除
  - (n) SBKK株式を活用したマージンローンの負債残高相当額等を控除
  - (o) Tモバイル株式を活用した先渡売買契約(カラー契約)に係る株式先渡契約金融負債を控除
  - (p) ドイツテレコム株式を活用したカラー取引に係る負債残高相当額を控除
  - (q) アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額を控除

## 4. LTV (純負債/保有株式)

- LTV = 純負債 ÷ 保有株式

## 5. その他

- 株価: 2022年12月31日終値
- 為替: 1ドル = 132.70円

- SBG = ソフトバンクグループ株式会社、アリババ = Alibaba Group Holding Limited、SBKK = ソフトバンク株式会社、SVF1 = ソフトバンク・ビジョン・ファンド1、SVF2 = ソフトバンク・ビジョン・ファンド2、LatAm Funds = ソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド、Tモバイル = T-Mobile US, Inc.、ドイツテレコム = Deutsche Telekom AG、アーム = Arm Limited
- 別段記載のない限り税金考慮前
- 当社の想定であり、SBGの普通株式を含むいかなる有価証券の価値や投資判断を示唆するものではありません。

# NAV・LTVの定義及び算出方法 (2022年3月末時点)

## 1. NAV (Net Asset Value: 時価純資産)

- NAV = 保有株式 - 純負債

## 2. 保有株式(保有株式価値、アセットバック・ファイナンス調整後)

- Alibaba(アリババ): SBGの保有株式数に相当する米国預託証券数に同証券の株価を乗じ、下記の(a)及び(b)を控除して算出
  - (a) アリババ株式を活用した複数の先渡売買契約(フロア契約・カラー契約・フォワード契約・コールスプレッド)のうち、未決済分の満期決済金額(同社株価で算出)の合計額
  - (b) アリババ株式を活用したマージンローンの負債残高相当額
- SBKK: SBGの保有株式数に同社株式の株価を乗じ、同社株式を活用したマージンローンの負債残高相当額を控除して算出
- SVF1: SVF1の保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込み金額等
- SVF2: SVF2の保有資産価値相当に対するSBGの持分等
- LatAm Funds: LatAm Fundsの保有資産価値相当に対するSBGの持分 + 成功報酬の見込み金額
- TMモバイル: 下記の(c)~(e)の合計から(f)~(h)を控除して算出
  - (c) SBGの保有株式数に同社株式の株価を乗じた価値(ドイツテレコムが保有する株式購入オプションの対象となる株式数(2022年3月末時点:56,124,954株)を含む)
  - (d) 一定の条件下でSBGがTMモバイル株式(48,751,557株)を無償で取得できる権利(条件付対価)の公正価値
  - (e) 2020年6月にTMモバイルによる現金強制転換証券(Cash Mandatory Exchangeable Trust Securities)を発行する信託へのTMモバイル株式の売却取引に関連して受領した、一定の条件下でSBGの子会社がTMモバイル株式を取得できる権利の公正価値
  - (f) ドイツテレコムが保有する未行使の株式購入オプションに係るデリバティブ金融負債の金額
  - (g) TMモバイル株式を活用したマージンローンの借入総額のうち、ノンリコースのアセットバック・ファイナンスとしている金額(TMモバイル株式を活用した借入(借入総額\$2.06bn)については、例外的にSBGが一部保証しているため、当該保証債務の上限枠(\$0.57bn)を控除した\$1.49bnをノンリコースのアセットバック・ファイナンスによる借入額としています。なお、SBGが当該保証を履行する前提条件として、金融機関はまず当該借入の担保に供されているアリババ株式から最大限回収を図ることが義務付けられている)
  - (h) TMモバイル株式を活用した先渡売買契約(カラー契約)の満期決済金額(同社株価で算出)
- ドイツテレコム: SBGの保有株式数に同社株価を乗じ、同社株式を活用したカラー取引の満期決済金額を控除して算出
- Arm(アーム): SVF1において算出されたアームの全株式の公正価値に基づくSBG持分の公正価値から、SBGが保有する同社株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額を控除して算出(希薄化前の発行済株式に対するSBGの持分:75.01%)
- SB Northstar(上場株投資): SB NorthstarのNAVに対するSBGの持分に、SBGが保有するNVIDIA Corporation株式数に同社株価を乗じた価値を加算して算出
- その他: 以下(i)~(k)の合計
  - (i) 上場株式: SBGの保有株式数に各上場株式の株価を乗じて算出
  - (j) 非上場株式: SBGが保有する未上場株式等の公正価値(公正価値で測定していない株式等はSBGのBS上の簿価)に基づいて算出
  - (k) SB Northstar: SB NorthstarのNAVに対するSBGの持分に、SBGが保有するNVIDIA Corporation株式数に同社株価を乗じた価値を加算して算出

## 3. 純負債(アセットバック・ファイナンス調整後)

- 純負債 = SBGの純有利子負債
- SBGの純有利子負債 = 連結純有利子負債 - 独立採算子会社等の純有利子負債 - その他調整
- 連結純有利子負債にはPayPay銀行の銀行業の預金及び手元流動性を含まない
- 独立採算子会社等の純有利子負債: SBKK(Zホールディングス株式会社をはじめとする子会社を含む)、SVF1、SVF2、ラテンアメリカ・ファンド、アーム、PayPay株式会社等の独立採算子会社、ならびにSB Northstarの有利子負債合計から現預金等合計を減算
- その他調整: 以下の(l)~(v)の調整額の合計
  - (l) 2016年9月発行 円建てハイブリッド債: 連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
  - (m) 2017年7月発行 ドル建てハイブリッド債: 連結会計上、全額が資本計上されているため50%を有利子負債に加算
  - (n) 2017年11月発行 円建てハイブリッドローン: 連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
  - (o) 2021年2月及び6月発行 円建てハイブリッド債: 連結会計上、全額が負債計上されているため50%を有利子負債から控除
  - (p) アリババ株式を活用したマージンローンの負債残高相当額を控除
  - (q) アリババ株式を活用した複数の先渡売買契約(フロア契約・カラー契約・フォワード契約)に係る株式先渡契約金融負債を控除
  - (r) SBKK株式を活用したマージンローンの負債残高相当額を控除
  - (s) TMモバイル株式を活用したマージンローンの借入総額のうち、ノンリコースのアセットバック・ファイナンスとしている金額を控除(上記2.(g)参照)
  - (t) TMモバイル株式を活用した先渡売買契約(カラー契約)に係る株式先渡契約金融負債を控除
  - (u) ドイツテレコム株式を活用したカラー取引に係る負債残高相当額を控除
  - (v) アーム株式を活用したアセットバック・ファイナンスによる借入の負債残高相当額を控除

## 4. LTV (純負債/保有株式)

- LTV = 純負債 ÷ 保有株式

## 5. その他

- 株価: 2022年3月31日終値
- 為替: 1ドル = 122.39円
- SBG = ソフトバンクグループ株式会社、アリババ = Alibaba Group Holding Limited、SBKK = ソフトバンク株式会社、SVF1 = ソフトバンク・ビジョン・ファンド1、SVF2 = ソフトバンク・ビジョン・ファンド2、LatAm Funds = ソフトバンク・ラテンアメリカ・ファンド、TMモバイル = T-Mobile US, Inc.、ドイツテレコム = Deutsche Telekom AG、アーム = Arm Limited
- 別段記載のない限り税金考慮前
- 当社の想定であり、SBGの普通株式を含むいかなる有価証券の価値や投資判断を示唆するものではありません。



# SVF1 公開株投資先 (2023年3月末時点)

(\$ M)	(a) 投資額 *1	(b) 時価 *2 (ダブ)	(c) = (b) - (a) 損益 (ダブ)	(d) = (b) / (a) 倍率 *3	
	Coupage	2,729	10,202	7,473	3.7x
	DoorDash	680	7,327	6,647	10.8x
全持分売却済	NVIDIA	2,878	5,813	2,936	2.0x
全持分売却済	Guardant Health	308	2,665	2,358	8.7x
全持分売却済	Uber	7,666	9,215	1,549	1.2x
全持分売却済	Slack	334	1,018	684	3.0x
全持分売却済	Ping An Good Doctor	400	828	428	2.1x
全持分売却済	Opendoor	450	824	374	1.8x
	PolicyBazaar	199	555	356	2.8x
	Vir Biotechnology	199	554	355	2.8x
全持分売却済	10x Genomics	31	338	307	10.9x
	Delhivery	397	591	194	1.5x
	SenseTime	1,429	1,592	163	1.1x
	Relay Therapeutics	300	460	160	1.5x
	Energy Vault	60	40	-20	0.7x
	GoTo (Gojek Tokopedia) *4	841	753	-88	0.9x
	OneConnect	100	5	-95	0.1x
	Zomato	309	178	-131	0.6x
全持分売却済	ZhongAn	550	400	-150	0.7x
	Full Truck Alliance	1,700	1,517	-183	0.9x
	Roivant (Listed Portion Only) *5	919	729	-189	0.8x
	Aurora Innovation	333	55	-278	0.2x
	Getaround	348	6	-342	0.02x
	Auto1	741	370	-371	0.5x
	Ginkgo Bioworks (Previously Zymergen)	404	32	-372	0.1x
	Paytm	1,600	1,074	-526	0.7x
	Compass	1,082	428	-654	0.4x
	Grab	2,993	2,105	-889	0.7x
	View	1,175	33	-1,142	0.03x
	WeWork *6	3,468	71	-3,398	0.02x
	DiDi	12,073	3,680	-8,393	0.3x
(A)	公開株式 合計 (ダブ) *7	\$46,697 (6.2兆円)	\$53,457 (7.1兆円)	+\$6,760 (+0.9兆円)	1.1x
(B)	未公開株式等	\$40,926	\$45,605	\$4,680	
(A)+(B)	Vision Fund 1 合計(SBG目線)	\$87,623	\$99,062	\$11,440	

1. 投資額: 投資関連の資金調達を含む投資目的の全ての外部キャッシュフローと投資関連のヘッジに支払われたオプション料(純額)の合計  
2. 時価(ダブ): 投資とそれに関連するヘッジから生じる全ての外部キャッシュフローと'23年3月末時点における未実現有価証券の公正価値の合計。税金、投資関連の資金調達及びその他のファンド関連の負債等考慮前  
3. 倍率: Gross multiples of invested capital (Gross MOIC)。時価(ダブ)を投資額で除して算出。純額ベースの銘柄別の投資成果は、報酬及び費用の配分について仮定を置いて算出する必要があるため未掲載  
4. GoTo: SVF1の公開株の投資額には、Gojekとの合併前のTokopediaへの投資を反映しており、GoTo上場前に実現した\$7mmを除外  
5. Roivant: SVF1の公開株の投資額からはRoivantの上場前('20年3月)に実現した\$116mmを除外  
6. WeWork: SVF1の公開株の投資額(\$3,468mm)には、WeWork Asia Holding Company B.V.("WeWork Asia")への投資額(\$400mm)が含まれる WeWork Asia株式は1株当たり\$11.60で'20年4月にWeWork優先株式に交換  
7. 公開株式 合計(ダブ): 公開株式には店頭市場で取引されているDiDiへの投資を含む。  
SBG目線: ソフトバンク・ビジョン・ファンド事業のセグメントベース。NVIDIAのヘッジ取引に係るデリバティブ損益等を含む。SBGからSVF1への移管が決定されていたものの実行されなかった投資について、移管の取りやめを決定するまでの期間に発生した未実現評価損益は含まない。  
累計投資パフォーマンスを純額で表示  
SVF1に対するSBGからの累計支払額(純額)(Net-Paid-in capital) = \$27.7bn。SBGに所属する価値合計(Total Value) = \$28.9bn。詳細は「2023年3月期 Investor Briefing SoftBank Vision & LatAm Funds」を参照

# SVF2 公開株投資先 (2023年3月末時点)

(\$ M)		(a) 投資額 <sup>*1</sup>	(b) 時価 <sup>*2</sup> (グロス)	(c) = (b) - (a) 損益 (グロス)	(d) = (b) / (a) 倍率 <sup>*3</sup>
	全持分売却済				
	Beike	1,350	2,497	1,147	1.8x
	Symbotic	200	457	257	2.3x
	AutoStore	2,800	2,820	20	1.0x
	Qualtrics	24	14	-10	0.6x
	IonQ	61	38	-23	0.6x
	Berkshire Grey	115	90	-25	0.8x
	Pear Therapeutics <sup>*4</sup>	46	3	-43	0.1x
	Alnovation	126	76	-50	0.6x
	Full Truck Alliance	250	177	-73	0.7x
	Zhangmen	105	0.4	-105	0.004x
	Exscientia	284	101	-184	0.4x
	Seer	205	20	-185	0.1x
	DingDong Mai Cai	325	54	-271	0.2x
	JD Logistics	601	213	-388	0.4x
	WeWork	2,545	288	-2,257	0.1x
(A)	公開株式 合計(グロス) <sup>*5</sup>	\$9,036 (1.2兆円)	\$6,848 (0.9兆円)	-\$2,188 (-0.3兆円)	0.8x
(B)	未公開株式等	\$41,199	\$25,113	-\$16,087	
(A)+(B)	Vision Fund 2 合計(SBG目線)	\$50,235	\$31,961	-\$18,275	

- 投資額: 投資関連の資金調達を含む投資目的の全ての外部キャッシュフローと投資関連のヘッジに支払われたオプション料(純額)の合計
- 時価(グロス): 投資とそれに関連するヘッジから生じる全ての外部キャッシュフローと'23年3月末時点における未実現有価証券の公正価値の合計。税金、投資関連の資金調達及びその他のファンド関連の負債等考慮前。
- 倍率: Gross multiples of invested capital (Gross MOIC)。時価(グロス)を投資額で除して算出。純額ベースの銘柄別の投資成果は、報酬及び費用の配分について仮定を置いて算出するため掲載していない。
- 2023年4月19日に上場廃止
- 公開株式 合計(グロス): 公開株式には店頭市場で取引されているZhangmenへの投資を含む。

SBG目線: ソフトバンク・ビジョン・ファンド事業のセグメントベース。累計投資パフォーマンスを純額で表示。

SVF2に対するSBGからの累計支払額(純額)(Net-Paid-in capital) = \$49.3bn、SBGに帰属する価値合計(Total Value) = \$31.2bn。詳細は「2023年3月期 Investor Briefing SoftBank Vision & LatAm Funds」を参照

1ドル= 133.53円('23年3月31日TTM)で換算

# SVF1 (2023年3月末) (ファンド全体)

普通出資IRR

1%

優先出資IRR

7%

ブレンドIRR

3%

## <公正価値の評価プロセス>

SBIAは四半期ごとに英国の金融行為規制機構(FCA: Financial Conduct Authority)が発行したオルタナティブ投資ファンドマネージャー指針(AIFMD: Alternative Investment Fund Manager Directive)に準拠してSVF1で実施された投資の公正価値を決定する必要があります。SBIAのポートフォリオ投資評価チームは、ポートフォリオマネジメントのチームとは機能的に独立しており、株式投資と特定の複雑な金融商品の公正価値の算出に際しては、必要に応じて、高度な知識や経験を有する外部の専門家に関与することもあります。これに並行して、SVF1の投資アドバイザーボード(IAB: Investor Advisory Board)が、独立の投資評価者として複数の外部ファームを選任し、半期ごとにSVF1で実施された投資の独立評価を行っています。SBIAのポートフォリオ投資評価チームによる評価結果は、独立の投資評価者のレポートを十分に考慮の上、SBIAの投資評価・財務リスク委員会(VFRC: Valuation and Financial Risk Committee)によるレビューを受け、承認されます。SBIAの投資評価・財務リスク委員会はSBIAのCEOをはじめとするSBIAの上級管理職で構成されています。SBIAの投資評価・財務リスク委員会によって承認されると、投資評価の結果はSVF1の独立監査人であるデロイトにより財務諸表の一部として監査を受けます。評価結果はSBIA UK Boardに最終承認されます。

## <公正価値の評価方法>

SVF1が適用する会計基準はIFRSです。中でも、IFRS13号(公正価値測定)が公正価値の測定について一般的な枠組みを提供しています。また、SVF1はIPEV(International Private Equity and Venture Capital)評価ガイドラインにも準拠しています。IFRSに従い、公正価値測定にあたっては、SBIAは関連する観察可能なインプット(株式市場価格等)を最大限活用し、観察不能なインプットの利用を最小限にしつつ、十分なデータが入手可能となる適切な評価技法を状況に応じて採用しています。活発に取引が行われている市場で公開している会社については、取引相場価格を調整することなく公正価値測定に使用します。未公開会社はマーケットアプローチとインカムアプローチが広く評価技法として使用されています。マーケットアプローチは、類似公開企業比準法や、類似業種比準法、市場価格法などのことです。インカムアプローチは、DCF法をその手法の一つとし、予想将来キャッシュフローの現在価値を計算して事業価値を算出することです。直近の取引価格は、秩序だった取引の結果であれば、一般的には取引日の公正価値を表しています。直近取引法を適用する場合、新規外部投資参加者、投資家の専門性のレベル、取引の規模など、関連する要素を考慮に入れます。さらに、投資について優先劣後などの内容を考慮しています。すなわち、優先株式は劣後株式より価値があります。

## <投資成績の定義>

**普通出資IRR(LP Net Equity IRR)**とは、管理報酬、成功報酬、優先出資持分に係る定率の固定分配額(Preferred Equity Coupon)及びその他の諸経費が支払われた後の普通出資持分に係る内部収益率を指します。'23年3月末時点での普通出資持分に帰属するリミテッド・パートナーからの資金拠出・分配、投資資金融資枠の実行額、投資関連の純資金調達額及びSVF1の純資産価値を元に算出されています。

**優先出資IRR(LP Net Preferred Equity IRR)**とは、諸経費が支払われた後の優先出資持分に係る内部収益率を指します。'23年3月末時点での優先出資持分に帰属するリミテッド・パートナーからの資金拠出・分配、投資資金融資枠の実行額、投資関連の純資金調達額、SVF1の純資産価値及び引当済かつ未払いの優先出資持分に係る定率の固定分配額(Preferred Equity Coupon)を元に算出されています。

**ブレンドIRR(LP Net Blended IRR)**とは、管理報酬、成功報酬、優先出資持分に係る定率の固定分配額(Preferred Equity Coupon)及びその他の諸経費が支払われた後の普通出資持分及び優先出資持分を組み合わせた正味の内部収益率を指します。'23年3月末時点でのリミテッド・パートナーからの資金拠出・分配、投資資金融資枠の実行額、投資関連の純資金調達額及びSVF1の純資産価値を元に算出されています。なお、これは、Preferred Equity Coupon(分配済み・未払い含む)を反映したものです。

"Equity"IRRは例示を目的としたものであり、SVF1全体の投資成績の一部しか表していません。加えて、優先出資持分に対するコミットメントは反映されておらず(これはSVF1全体の投資成績に大きな影響を与えるものであり、より低い成績となる可能性があります)、いずれのリミテッドパートナーの投資成績を表すものではありません。個別の投資実績及び資金拠出・分配のタイミングに応じて、リミテッド・パートナー毎に投資成績は異なります。SVF1はこれまでの運営期間が限られており、それゆえ投資成績はここに示されている通りにならない可能性があり、未実現の投資が実現した場合のリターンはここに示された投資成績と大きく異なる可能性があります。

SVF1の投資成績は直近でSVF1が一括でSBGから取得した投資案件の成績を含めています。したがって、ここに示された投資成績は未実現である投資先の評価に基づくものを含めており、将来の成績を表すものではありません。SBGは今後類似する資産の一括でのSVF1への引き渡しを行う義務はありません。

過去の投資成績は将来の業績を示唆するものではありません。

# SVF1 (2023年3月末) (SBG (LP) + 成功報酬)

## 普通出資IRR 1%

### <公正価値の評価プロセス>

SBIAは四半期ごとに英国の金融行為規制機構(FCA: Financial Conduct Authority)が発行したオルタナティブ投資ファンドマネージャー指針(AIFMD: Alternative Investment Fund Manager Directive)に準拠してSVF1で実施された投資の公正価値を決定する必要があります。SBIAのポートフォリオ投資評価チームは、ポートフォリオマネジメントのチームとは機能的に独立しており、株式投資と特定の複雑な金融商品の公正価値の算出に際しては、必要に応じて、高度な知識や経験を有する外部の専門家が関与することもあります。これに並行して、SVF1の投資アドバイザーボード(IAB: Investor Advisory Board)が、独立の投資評価者として複数の外部ファームを選任し、半期ごとにSVF1で実施された投資の独立評価を行っています。SBIAのポートフォリオ投資評価チームによる評価結果は、独立の投資評価者のレポートを十分に考慮の上、SBIAの投資評価・財務リスク委員会(VFRC: Valuation and Financial Risk Committee)によるレビューを受け、承認されます。投資評価・財務リスク委員会はSBIAのCEOをはじめとするSBIAの上級管理職で構成されています。SBIAの投資評価・財務リスク委員会によって承認されると、投資評価の結果はSVF1の独立監査人であるデロイトにより財務諸表の一部として監査を受け、評価結果はSBIA UK Boardに最終承認されます。

### <公正価値の評価方法>

SVF1が適用する会計基準はIFRSです。中でも、IFRS13号(公正価値測定)が公正価値の測定について全般的な枠組みを提供しています。また、SVF1はIPEV(International Private Equity and Venture Capital)評価ガイドラインにも準拠しています。IFRSに従い、公正価値測定にあたっては、SBIAは関連する観察可能なインプット(株式市場価格等)を最大限活用し、観察不能なインプットの利用を最小限にしつつ、十分なデータが入手可能となる適切な評価技法を状況に応じて採用しています。活発に取引が行われている市場で公開している会社については、取引相場価格を調整することなく公正価値測定に使用します。未公開会社はマーケットアプローチとインカムアプローチが広く評価技法として使用されています。マーケットアプローチは、類似公開企業比準法や、類似業種比準法、市場価格法などのことです。インカムアプローチは、DCF法をその手法の一つとし、予想将来キャッシュフローの現在価値を計算して事業価値を算出することです。直近の取引価格は、秩序だった取引の結果であれば、一般的には取引日の公正価値を表しています。直近取引法を適用する場合、新規外部投資参加者、投資家の専門性のレベル、取引の規模など、関連する要素を考慮に入れます。さらに、投資について優先劣後などの内容を考慮しています。すなわち、優先株式は劣後株式より価値があります。

### <投資成績の定義>

**普通出資IRR(LP Net Equity IRR)**とは、管理報酬、成功報酬、優先出資持分に係る定率の固定分配額(Preferred Equity Coupon)及びその他の諸経費が支払われた後の普通出資持分に係る内部収益率を指します。'23年3月末時点での普通出資持分に帰属するリミテッド・パートナーからの資金拠出・分配、投資資金融資枠の実行額、投資関連の純資金調達額及びSVF1の純資産価値を元に算出されています。

**普通出資IRR(Net Equity IRR (SBG (LP)+成功報酬))**は、マネージャーとしての成功報酬(支払済み・未払い含む)の影響を調整した、SBGの普通出資持分に係る内部収益率(計算はLP Net Equity IRRと同様)を表しています。

“Equity”IRRは列示を目的としたものであり、SVF1全体の投資成績の一部しか表していません。加えて、優先出資持分に対するコミットメントは反映されておらず(これはSVF1全体の投資成績に大きな影響を与えるものであり、より低い成績となる可能性があります)、いずれのリミテッドパートナーの投資成績を表すものではありません。個別の投資実績及び資金拠出・分配のタイミングに応じて、リミテッド・パートナー毎に投資成績は異なります。SVF1はこれまでの運営期間が限られており、それゆえ投資成績はここに示されている通りにならない可能性があり、未実現の投資が実現した場合のリターンはここに示された投資成績と大きく異なる可能性があります。

SVF1の投資成績は直近でSVF1が一括でSBGから取得した投資案件の成績を含めています。したがって、ここに示された投資成績は未実現である投資先の評価に基づくものを含めており、将来の成績を表すものではありません。SBGは今後類似する資産の一括でのSVF1への引き渡しを行う義務はありません。

投資期間終了前に売却した投資案件に係る成功報酬は、全額支払いが行われており、クローバック条項の対象となります。

過去の投資成績は将来の業績を示唆するものではありません。

# SVF2 (2023年3月末) (SBG (LP))

## ブレンドIRR

# - 26%

### <公正価値の評価プロセス>

SBIAはSBGAの選任投資顧問として四半期ごとにIFRSに準拠してSVF2で実施された投資の公正価値を決定する必要があります。SBIAのポートフォリオ投資評価チームは、ポートフォリオマネジメントのチームとは機能的に独立しており、株式投資と特定の複雑な金融商品の公正価値の算出に際しては、必要に応じて、高度な知識や経験を有する外部の専門家に関与することもあります。SBIAのポートフォリオ投資評価チームによる評価結果は、SBGAの投資評価・財務リスク委員会(VFRC: Valuation and Financial Risk Committee)によるレビューを受け、承認されます。SBGAの投資評価・財務リスク委員会はSBGAのExecutive Committeeのメンバーとその他の上級管理職で構成されています。投資評価・財務リスク委員会によって承認されると、投資評価の結果はSVF2の独立監査人であるデロイトにより財務諸表の一部として監査を受けます。評価結果はSBGA Boardに最終承認されます。

### <公正価値の評価方法>

SVF2が適用する会計基準はIFRSです。中でも、IFRS13号(公正価値測定)が公正価値の測定について全般的な枠組みを提供しています。また、SVF2はIPEV(International Private Equity and Venture Capital)評価ガイドラインにも準拠しています。IFRSに従い、公正価値測定にあたっては、SBIAは関連する観察可能なインプット(株式市場価格等)を最大限活用し、観察不能なインプットの利用を最小限にしつつ、十分なデータが入手可能となる適切な評価技法を状況に応じて採用しています。活発に取引が行われている市場で公開している会社については、取引相場価格を調整することなく公正価値測定に使用します。未公開会社はマーケットアプローチとインカムアプローチが広く評価技法として使用されています。マーケットアプローチは、類似公開企業比準法や、類似業種比準法、市場価格法などのことです。インカムアプローチは、DCF法をその手法の一つとし、予想将来キャッシュフローの現在価値を計算して事業価値を算出することです。直近の取引価格は、秩序だった取引の結果であれば、一般的には取引日の公正価値を表しています。直近取引法を適用する場合、新規外部投資参加者、投資家の専門性のレベル、取引の規模など、関連する要素を考慮に入れます。さらに、投資について優先劣後などの内容を考慮しています。すなわち、優先株式は劣後株式より価値があります。

### <投資成績の定義>

ブレンドIRR(LP Net Blended IRR)とは、リミテッド・パートナーが負担する管理報酬、業績連動型管理報酬、優先出資持分に係る定率の固定分配額(Preferred Equity Coupon)及びその他の諸経費が支払われた後の普通出資持分及び優先出資持分を含めたSVF2の異なる種類の証券の合計の正味の投資成績を表しています。'23年3月末時点でのリミテッド・パートナーからの資金拠出・分配、投資資金融資枠の実行額、投資関連の純資金調達額及びSVF2の純資産価値を元に算出されています。なお、これは、Preferred Equity Coupon(分配済み・未払い含む)を反映したものです。

ブレンドIRR(Net Blended IRR (SBG (LP)))は、SBGのブレンドIRR率(計算はLP Net Blended IRRと同様)を表しています。'22年3月末に、成功報酬に関する規定が業績連動型管理報酬に関する規定に改定されましたが、業績連動型管理報酬はSBGの投資成績には含まれません。

SVF2はこれまでの運営期間が限られており、それゆえ投資成績はここに示されている通りにならない可能性があり、未実現の投資が実現した場合のリターンはここに示された投資成績と大きく異なる可能性があります。

SVF2の投資成績は直近でSVF2が一括でSBGから取得した投資案件の成績を含めています。したがって、ここに示された投資成績は未実現である投資先の評価に基づくものを含めており、将来の成績を表すものではありません。SBGは今後類似する資産の一括でのSVF2への引き渡しを行う義務はありません。

過去の投資成績は将来の業績を示唆するものではありません。

# SVF1+2 (2023年3月末) (SBG (LP) + 成功報酬)

## ブレンドIRR

# -11%

### <公正価値の評価プロセス>

SBIAは四半期ごとに英国の金融行為規制機構(FCA: Financial Conduct Authority)が発行したオルタナティブ投資ファンドマネージャー指針(AIFMD: Alternative Investment Fund Manager Directive)及びIFRSに準拠してSVF1及びSVF2(以下併せて「ファンド」)で実施された投資の公正価値を決定する必要があります。SBIAのポートフォリオ投資評価チームは、ポートフォリオマネジメントのチームとは機能的に独立しており、株式投資と特定の複雑な金融商品の公正価値の算出に際しては、必要に応じて、高度な知識や経験を有する外部の専門家が関与することもあります。SVF1では、これに並行して、SVF1の投資アドバイザーボード(IAB: Investor Advisory Board)が、独立の投資評価者として複数の外部ファームを選任し、半期ごとにSVF1で実施された投資の独立評価を行っています。SBIAのポートフォリオ投資評価チームによるSVF1及びSVF2の評価結果は、独立の投資評価者のレポートを十分に考慮の上、SBIA及びSBGAのそれぞれの投資評価・財務リスク委員会(VFRC: Valuation and Financial Risk Committee)によるレビューを受け、承認されます。SBIAの投資評価・財務リスク委員会はSBIAのCEOとその他の上級管理職で構成されています。SBGAの投資評価・財務リスク委員会はSBGAのExecutive Committeeメンバーとその他の上級管理職で構成されています。投資評価・財務リスク委員会によって承認されると、投資評価の結果はファンドの独立監査人であるデロイトにより財務諸表の一部として監査を受けます。SVF1の評価結果はSBIA UK Boardに最終承認され、SVF2の評価結果はSBGA Boardに最終承認されます。

### <公正価値の評価方法>

ファンドが適用する会計基準はIFRSです。中でも、IFRS13号(公正価値測定)が公正価値の測定について全般的な枠組みを提供しています。また、ファンドはIPEV(International Private Equity and Venture Capital)評価ガイドラインにも準拠しています。IFRSに従い、公正価値測定にあたっては、SBIAは関連する観察可能なインプット(株式市場価格等)を最大限活用し、観察不能なインプットの利用を最小限にしつつ、十分なデータが入手可能となる適切な評価技法を状況に応じて採用しています。活発に取引が行われている市場で公開している会社については、取引相場価格を調整することなく公正価値測定に使用します。未公開会社はマーケットアプローチとインカムアプローチが広く評価技法として使用されています。マーケットアプローチは、類似公開企業比準法や、類似業種比準法、市場価格法などのことです。インカムアプローチは、DCF法をその手法の一つとし、予想将来キャッシュフローの現在価値を計算して事業価値を算出することです。直近の取引価格は、秩序だった取引の結果であれば、一般的には取引日の公正価値を表しています。直近取引法を適用する場合、新規外部投資参加者、投資家の専門性のレベル、取引の規模など、関連する要素を考慮に入れます。さらに、SVF2の投資について優先劣後などの内容を考慮しています。すなわち、優先株式は劣後株式より価値があります。

### <投資成績の定義>

**Vision Fund 1+2 (SBG (LP)+成功報酬)**は、SBGによるファンドへの投資開始以来の合算の投資成績を表したものです。(以下に定義)

**ブレンドIRR(LP Net Blended IRR)**とは、管理報酬、業績連動型管理報酬、成功報酬、優先出資持分に係る定率の固定分配額(Preferred Equity Coupon)及びその他の諸経費が支払われた後の普通出資持分及び優先出資持分を含めたSVF1とSVF2の異なるクラスの証券の合計の正味の投資成績を表しています。'23年3月末時点でのリミテッド・パートナーからの資金拠出・分配、投資資金融資枠の実行額、投資関連の純資金調達額及びSVF1とSVF2の純資産価値を元に算出されています。

**ブレンドIRR(Net Blended IRR (SBG (LP)+成功報酬))**は、SVF1のマネージャーとしての成功報酬(支払済み・未払い含む)の影響を調整した、SBGのSVF1とSVF2に係るブレンドIRR(計算はLP Net Blended IRRと同様)を表しています。SVF1については、投資期間終了前に売却した投資案件に係る成功報酬は、全額支払いが行われており、クローバック条項の対象となります。SVF2については、'23年3月末に、成功報酬に関する規定が業績連動型管理報酬に関する規定に改定されましたが、業績連動型管理報酬はSBGの投資成績には含まれません。

ファンドはこれまでの運営期間に限られており、それゆえ投資成績はここに示されている通りにならない可能性があり、未実現の投資が実現した場合のリターンはここに示された投資成績と大きく異なる可能性があります。

ファンドの投資成績は直近でファンドが一括でSBGから取得した投資案件の成績を含めています。したがって、ここに示された投資成績は未実現である投資先の評価に基づくものを含めており、将来の成績を表すものではありません。SBGは今後類似する資産の一括でのSVF1もしくはSVF2への引き渡しを行う義務はありません。

過去の投資成績は将来の業績を示唆するものではありません。



# LatAm Funds (2023年3月末)

## (SBG (LP) + 成功報酬)

# ブレンドIRR

# -11%

### <公正価値の評価プロセス>

SBIAはSBGAの選任投資顧問として四半期ごとにIFRSに準拠してLatAm Fundsで実施された投資の公正価値を決定する必要があります。SBIAのポートフォリオ投資評価チームは、ポートフォリオマネジメントのチームとは機能的に独立しており、株式投資と特定の複雑な金融商品の公正価値の算出に際しては、必要に応じて、高度な知識や経験を有する外部の専門家が関与することもあります。SBIAのポートフォリオ投資評価チームによる評価結果は、SBGAの投資評価・財務リスク委員会(VFRC: Valuation and Financial Risk Committee)によるレビューを受け、承認されます。SBGAの投資評価・財務リスク委員会はSBGAのExCoのメンバーとその他の上級管理職で構成されています。投資評価・財務リスク委員会によって承認されると、投資評価の結果はLatAm Fundsの独立監査人であるデロイトにより財務諸表の一部として監査を受けます。評価結果はSBGA Boardに最終承認されます。

### <公正価値の評価方法>

LatAm Fundsが適用する会計基準はIFRSです。中でも、IFRS13号(公正価値測定)が公正価値の測定について全般的な枠組みを提供しています。また、LatAm FundsはIPEV(International Private Equity and Venture Capital)評価ガイドラインにも準拠しています。IFRSに従い、公正価値測定にあたっては、SBIAは関連する観察可能なインプット(株式市場価格等)を最大限活用し、観察不能インプットの利用を最小限にしつつ、十分なデータが入手可能となる適切な評価技法を状況に応じて採用しています。活発に取引が行われている市場で公開している会社については、取引相場価格を調整することなく公正価値測定に使用します。未公開会社はマーケットアプローチとインカムアプローチが広く評価技法として使用されています。マーケットアプローチは、類似公開企業比準法や、類似業種比準法、市場価格法などのことです。インカムアプローチは、DCF法をその手法の一つとし、予想将来キャッシュフローの現在価値を計算して事業価値を算出することです。直近の取引価格は、秩序だった取引の結果であれば、一般的には取引日の公正価値を表しています。直近取引法を適用する場合、新規外部投資参加者、投資家の専門性のレベル、取引の規模など、関連する要素を考慮に入れます。さらに、LatAm Fundsの投資について優先劣後などの内容を考慮しています。すなわち、優先株式は劣後株式より価値があります。

### <投資成績の定義>

LatAm Fundsとは、LatAm1及びLatAm 2を含むSBLA Latin America Fund LLCの合算の投資成績を表したものです。

**ブレンドIRR(LP Net Blended IRR)**とは、管理報酬、成功報酬、優先出資持分に係る定率の固定分配額(Preferred Equity Coupon)及びその他の諸経費が支払われた後の普通出資持分及び優先出資持分を含めた正味の内部収益率を指します。'23年3月末時点でのリミテッド・パートナーからの資金拠出・分配、投資資金融資枠の実行額、投資関連の純資金調達額及びLatAm Fundsの純資産価値を元に算出されています。なお、これは、Preferred Equity Coupon(分配済み・未払い含む)を反映したものです。

**ブレンドIRR(Net Blended IRR (SBG (LP)+成功報酬))**は、SBGの普通出資持分に係る内部収益率(計算はLP Net Equity IRRと同様)を表しています。該当がある場合は、マネージャーとしての成功報酬(支払済み・未払い含む)の影響が加味されます。

LatAm Fundsはこれまでの運営期間が限られており、それゆえ投資成績はここに示されている通りにならない可能性があり、未実現の投資が実現した場合のリターンはここに示された投資成績と大きく異なる可能性があります。

過去の投資成績は将来の業績を示唆するものではありません。